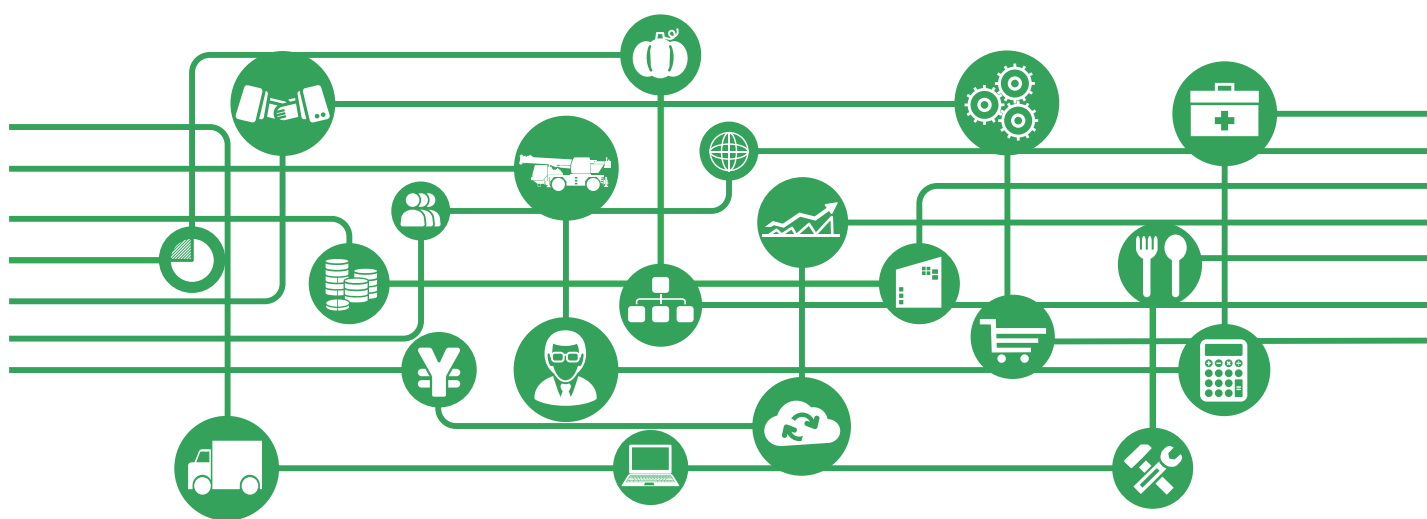


PCA

業種別事例集

～製造～



PCA



中国の子会社の会計データを明細のひとつひとつまで、日本側でダイレクトに管理。現地での導入支援もスムーズに実行でき、会計処理の日本基準ベースでの視覚化に成功。

東京コスモス電機株式会社

日本企業の海外展開、とりわけ中国や東南アジアなどに新しく工場や支社を開設する企業が増えている。最近
.....
は中堅・中小企業の海外展開が話題になっているが、今回取材にご協力いただいた東京コスモス電機株式会社
.....
は東証2部上場、産業機器用可変抵抗器の世界シェア40%で、この分野の最大手であり、900名近い従業員を
.....
抱える電子部品メーカーだ。すでに中国での工場運営にも実績のある同社が、新工場開設を機に導入したシス
.....
テムが『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』だ。早くも一部では導入効果が得られているという。
.....

導入システム

○PCA クラウド プリペイドプラン (Type6 4CAL)

- ・ PCA 会計 X クラウド
- ・ PCA 固定資産 X クラウド

○PCA 会計 X 海外会計データ受入オプション

導入の狙い

- ・中国に新しく開設する工場に日本人の会計担当者を常駐させなくても、迅速に、かつ容易に現地の会計状況を把握できるシステムにしたい。
- ・現地と日本で異なる帳票形式や会計基準、さらに言葉の壁を踏まえて、日本人が見てもわかりやすい帳票形式で確認したい。
- ・なるべくコストを抑えて導入したい。

導入効果

- ・『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』なら、現地の会計を日本側から短期間で管理・把握できる。さらに導入時には現地メーカーのサポートも受けられる。
- ・『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』では様々な機能を加えることで、日本人から見てもわかりやすい形式で出力できる。
- ・『PCAクラウド』によって新しくサーバーを設置することなく海外会計データ受入システムを利用できる。

プロフィール

東京コスモス電機株式会社

- 本社事業所: 〒252-8550 神奈川県座間市相武台二丁目12番1号
- 創立: 1957年(昭和32年)6月28日
- 資本金: 12億77百万円 東証2部上場
- 従業員: 933名(連結グループ会社含む) 168名(本社単体)
- 事業内容: 可変抵抗器、自動車用電装センサ、面状発熱体など電子部品の研究開発・製造・販売
- URL: <http://www.tocos-j.co.jp/>



TOCOS®

東京コスモス電機株式会社

TOCOSは、永年にわたり開発した確かな技術、ノウハウを統合して多様化にこたえます。私たちは、エレメント技術をエレクトロニクスに活かし、地球的視野にたって価値ある商品を提供します。



東京コスモス電機株式会社
管理本部 経理部 部長
稲垣 浩一 氏



東京コスモス電機株式会社
管理本部 経理部
新井 裕太 氏



本社(神奈川県 座間市)

導入前の運用と課題

○中国工場の会計データを日本本社から遅滞なく把握・管理したい

1957年に産業機器用可変抵抗器の専門メーカーとして操業を開始した東京コスモス電機株式会社。現在は自動車用電装品に主軸を移し、同社の製品は国内外の世界的なメーカーにも納入され、多くの企業から高い評価を受けている。市場が縮小化傾向にある中でも同社の業績は好調で、中国内には現在4カ所の生産販売拠点を開設している。

同社では2017年上期から中国での新しい工場の操業を始めることになった。それまで同社の中国内での各工場や営業所には、日本人の会計担当者を配置することができたが、新工場ではその人材確保が厳しかったという。そこでリコージャパンの担当者に相談したところ『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』なら日本国内から中国の工場の会計をタイムリーに把握できる」と紹介された。

「日本の本社から現地工場の資金繰りや製造原価などを速やかに把握したいという希望以外にも、現地の決算書を日本基準ベースで視覚化したいなど、実は様々な要望がありました。もちろんコスト面も踏まえたうえでシステムの検討に入りました」(管理本部 経理部 部長 稲垣浩一氏)(管理本部 経理部 新井裕太氏)(管理本部 経理部 廣瀬美樹氏)

選定のポイント

○『PCAクラウド』によってコスト面での負担を抑えた海外会計データ受入が可能

同社では当初、他のメーカーの海外会計データ受入システムも比較検討したという。しかしPCAの海外会計データ受入オプショ

ンには、他社にはない大きな特徴があった。

「それは『PCAクラウド』です。他社のシステムでは本社内に新しくサーバーを設置する必要があると言われ、その場合はやはりコストが高くなってしまいます。しかしPCAなら『PCAクラウド』を利用することでサーバーの設置は必要ありませんでした」(新井氏)

コスト面でのメリットも視野に入れ、2016年3月に『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』を導入。新工場での製造はまだ始まってはいないが(取材当時)、すでに同社では「短期間で現地子会社の会計管理」「会計内容のわかりやすい視覚化」について一定の効果が得られている。

導入後の効果

○各国ソフトウェアメーカーと連携することで、現地での法改正や導入支援に対応できる

PCAのグローバル支援サービスには、日本本社、現地支社・工場の双方にとって便利な特徴がある。

【特徴1】海外の主要な会計ソフトウェアメーカーとアライアンス(ALAE:アーレイ)を組むことで、現地でのソフト選びや導入支援をスムーズに行える。

同社の場合は中国の拠点ですでに使っていた会計ソフト『用友U8』をそのまま使い続けることができ、実際に新システムの導入前の準備についても現地メーカーのサポートを受けることができた。『ALAE』の利点は他にもあり、例えば現地で法改正などがあった場合にも柔軟に対応しやすい。同社の場合はすでに中国展開の実績があったが、初めて海外展開する企業の場合は会計ソフト選びから迷うことが多い。その場合に『ALAE』加盟メーカーのソフトを選ぶことができ、実際に『ALAE』加盟メーカーの会計ソフトは各国でトップシェアを誇る製品が並んでいる。また『ALAE』加盟メーカーが

共通フォーマットによるデータ連携を行っている。

【特徴2】『PCA会計X』のクラウド／オンプレミス両方と連携できる。海外の会計データは受入と同時にダイレクトにDBに書き込まれ、『PCA会計X』でバックアップをとることができる。

同社の場合は『PCAクラウド』を選択しており、中国の会計データは暗号化されたうえで日本側へ送られるためセキュリティ面での不安も少ない。

○中国子会社の会計処理が日本側で手に取るようになった

同社が導入の条件に挙げていた“現地の会計データの可視化”については、『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』の次の特徴を活かすことで実現できている。

【特徴3】外国語勘定科目を日本語勘定科目へ置き換えることが可能。海外拠点で使用する勘定科目と『PCA会計X』で使用する

勘定科目との読み替えを設定し、海外から仕訳データを受け入れるときはこの設定を元に勘定科目を登録する。→《海外からの会計データ受入後は…》外貨仕訳帳などで日本側がいつでも現地の数字を確認でき、仕訳の明細もひとつひとつ確認できる。

同社の場合は『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』の導入によって、勘定分析が容易になったと評価している。

「中国の現地では受取利息と支払利息を『利息収支』という同一勘定で計上しているのですが、ここはそれぞれ個別につかんでおきたい数字です。以前はこの部分を現地にメールで問い合わせ、その返事があるのが翌日。つまり1日かかっていましたが、現在は取り寄せたデータを取り込むことで総勘定元帳を閲覧できるので、個別に質問する必要がなくすぐに把握できます。またデータ受入オプションの外貨試算表は小数点以下の詳細まで見ることができるのも便利に感じている点です」(新井氏)

海外の拠点の数字の可視化については、他にも工夫している点がある。

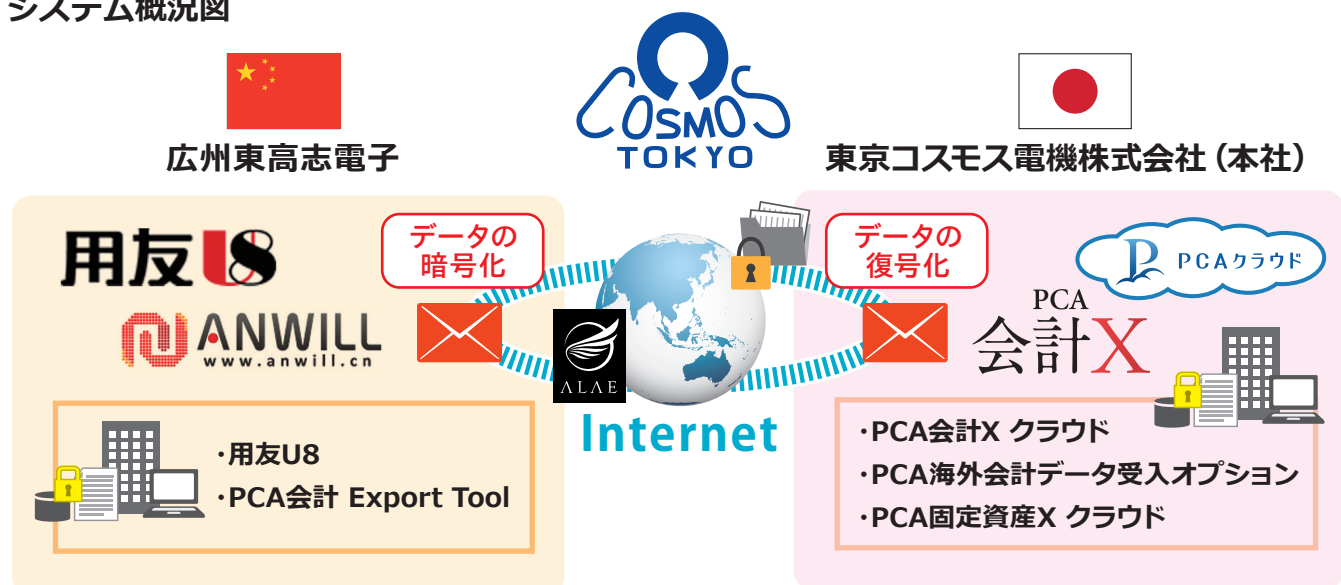


社内の様子



東京コスモス電機株式会社
管理本部 経理部
廣瀬 美樹 氏

システム概況図





電子部品

東京コスモス電機(株)の製品は、高い品質力を背景にあらゆる分野で使用されています。



東京コスモス電機株式会社 HP
<http://www.tocos-j.co.jp/>

【特徴4】通常、帳票のレイアウトは各国で異なり、借方と貸方が日本のように横並びで出力されない。しかしPCAでは伝票日付や科目コードなどを連携させることで、日本人から見てわかりやすい帳票の形で出力される。

さらに日本語と海外の言語という言葉の壁も、翻訳機能を付けることで内容を確認しやすいようにしている。

【特徴5】摘要文を翻訳する機能を採用。約50言語に対応しており、毎月200万文字までは無料で利用できる。(※200万字以降は字数に合わせて有償)

実際に同社でもこの翻訳機能をよく使っているそうだが、これまでに全く和訳の体を成していなかったことは数回。基本的には問題なく利用できているという。

このように海外拠点の会計データを明細まで細かく確認できる。結果、短期間で海外子会社の近況を詳細に把握でき、また内部統制の観点でも有効性が確保されている。

○為替換算伝票で急激に変動するレートの差額調整が可能

昨今の為替の急な変動は海外展開する企業にとって大きな負担になっている。そこで『PCA会計X 海外会計データ受入オプション』では為替換算伝票の登録に柔軟性を持たせている。例えば月中と月末で平均レートに差があった場合は、その差額を調整するため為替換算伝票を作成でき、PCAでは科目単位のパターン設定で対応できる。『PCA会計X』『PCA海外会計データ受入オプション』の両方の帳票処理でこの為替換算伝票の確認が可能だ。

今後の課題と展望

今回のPCAの海外グローバル支援サービスについて、同社では総体的に次のように評価している。

「導入前の一番大きな不安は、本当に中国の会計データと日本側とを連携できるかどうかでした。その不安は導入時の現地メーカーのいろいろな支援で払拭でき、導入自体とてもスムーズにできました」(新井氏)

「ただし中国の子会社と日本本社とでは決算期に期ズレがあり、今後はその部分にどう対応していくかを検討しています」(廣瀬氏)

「実際に製造を開始するのは2017年上期から。製造原価報告書との連携もぜひしたいと考えています。今回、当社はPCAのシステムによって現地に日本人の会計担当者を常駐させなくても子会社の会計データをつぶさに確認できる体制を確立できました。もちろん当社の中国における経験があったからこそできたことだと思いますが、当社と似た環境の企業であれば有効に活用できるシステムだと思います」(稲垣氏)

同社の高品質の自動車用電子部品や可変抵抗器は世界のプロ仕様の商品へと用いられている。グループ会社の会津コスモス電機は優秀な中小企業に託されるものづくり補助金によってさらに精度の高い製品を製造している。今後も世界一の性能と品質を目指し日本・中国の各拠点が一致団結して取り組むためにも、『PCA海外会計データ受入オプション』に寄せられる期待は大きい。

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



PCAクラウド導入によって
就業時間の集計は、
丸1日から約1時間へと短縮。
メンテナンス軽減やBCPにとどまらず、
次世代継承も見据えた業務の効率化へ。

森岡産業株式会社

1944年に創業した森岡産業。以来70年以上にわたって精密冷間圧造（塑性加工）での金属加工、さらに最近ではその技術を活かした自動車のギア製造など、同社の高い加工技術による優れた製品を生み出している。工場を持つ同社では従業員のシフトに様々なパターンがある。それらを確実に管理するスムーズな給与処理、そして間違いのない会計システムを目指して導入されたのが『PCAクラウド』だ。『PCAクラウド』の特徴を着実に業務へと活かしている同社に、その効果を伺った。

導入システム

○PCA クラウド イニシャル"0"プラン (Type6 4CAL)

- ・ PCA 給与 X クラウド
- ・ PCA 就業管理 X クラウド
- ・ PCA 会計 X クラウド

導入の狙い

- ・ COBOL言語を使った手組みのシステムではメンテナンスに限界があり、維持が困難であるので解消したい。
- ・ 震災や火災など万が一の災害発生でもデータをしっかり守りたい。
- ・ 複数名が操作できる環境にしたい。

導入効果

- ・ PCAのパッケージソフトならメンテナンスの負担はほぼなく、法令対応の負担も減った。
- ・ 『PCAクラウド』なら堅ろうなデータセンターでデータを保管。停電や地震などからもデータを守る。
- ・ 『PCAクラウド』ならどこからでも同時に複数名が入力可能。ソフトを操作できる社員が数名いることで、業務を滞らせる心配が解消。

プロフィール

森岡産業株式会社

- 川越工場: 〒510-8114 三重県三重郡川越町亀崎新田字下新田77-574
- 設立年月日: 1936年10月
- 従業員数: 160名
- 資本金: 9,800万円
- 主業種: 製造業
- 業務内容: 精密圧造部品（主に精密ネジ部品）の製造並びに販売
- URL: <http://morioka-ind.co.jp>



森岡産業は、冷間圧造でヘッダー加工やホーマー加工を行い、ネジ部品の製造並びに販売をおこなっています。六段ホーマーをはじめとした充実の設備により、複雑な形状の精密加工を省力化しておこなっています。



森岡産業株式会社
総務部 次長
太田 賢一 氏



森岡産業株式会社
総務部 経理 主任
市川 裕也 氏

導入前の運用と課題

○何かあった時のメンテナンスや、法令改正へ確実に対応できるシステムにしたい

森岡産業株式会社は70年以上にわたり精密冷間圧造（塑性加工）での金属加工を行ってきた老舗の企業だ。金型設計、冷間圧造、精密切削までの一貫した生産体制を構築しており、そのための最新型設備導入にも力を入れてきた。同社の高い技術力で生まれた高精度のネジは、日本を代表する自動車メーカーに納品され、さらにその技術を活かして製造されたギアは最新の自動ブレーキシステムに使用されている。

2006年には新工場も増設し、先進の設備を導入している工場では熟練した従業員たちが勤務している。約160名の従業員はそれぞれ複雑なシフトで勤務しており、その就業管理を行う総務部の担当人員は当時も今も約5名ほどだ。

「PCA導入前は、会計と給与は自社で組んだシステムを使って処理していました。私の上司がCOBOLなどの言語を用いて作った手組みのシステムで、それを私が引き継いで業務を行っていたのですが、このシステムをこのまま使い続けてよいのかと考えるようになりました」（総務部 次長 太田賢一氏）

太田氏が不安に思っていたのは主に次の2点だったという。

「まず1つめが、手組みのシステムはメンテナンスが難しい点です。COBOLは若い社員にはあまり馴染みがない言語ですし、常に私がこのシステムに付きっきりというわけにもいきません。そして2つめが毎年変わる法令への対応です。社会保険料率の変更や税法の改定があり、その対応が負担になっていました。上司と今後の業務を相談し、上司から『手組みのソフト、パッケージソフト、どちらを選ぶ？』と聞かれ、『パッケージソフトです！』と答えました」（太田氏）

選定のポイント

○BCP（事業継続計画）としての『PCAクラウド』

多くの会計・給与のパッケージソフトがある中でPCAを選んだのは、『PCAクラウド』の特徴が同社の業務をより安全・確実に運用できると考えたからだ。太田氏は当時を振り返る。

「念頭にあったのはBCP（事業継続計画）でした。社内にデータを置いている場合、震災だけでなく火災などでもデータを失うリスクが想定されます。万が一そのような事態が発生した場合、データ復旧の対応は難しいだろうと考えました。しかし『PCAクラウド』なら、そのような災害時でもデータをしっかりと守ってくれる、堅牢性と強固なセキュリティを保持するデータセンターを持っており、データを社内だけに置くよりも安全だと考えました」（太田氏）

『PCAクラウド』のデータセンターは災害に強い国内トップレベルのデータセンターを選んでおり、関東と関西の2カ所のデータセンターで稼働している。震度6強相当の地震にも耐えうる高度な免振構造施設を持ち、停電時の対策、侵入検知等のセキュリティサービスが施されているデータセンターだ。

このような『PCAクラウド』によるBCP対策がもっとも大きな決め手だったと語る同社だが、試しに『PCA会計Xクラウド』を使ってみたところ「これはいい！」（太田氏）と、その操作性や機能性の高さも評価の一つになり導入を決めた。

導入後の効果

○『PCAクラウド』による複数名の同時入力で、給与の支払い業務を滞らせる心配が解消

現在同社では『PCAクラウド』をBCPに限らず、日常業務の効率化へと着実に活かしている。その最大のメリットが、どこからでも複数名が同時に入力できる環境だ。現在は同時接続台数3台で、川越工場事務所と本社事務所(名古屋)で運用している。

「主に会計を担当している役員が本社に出向くことも多く、本社からでも川越工場事務所からでも、操作できる範囲に差をつけることなく会計処理を進められるようになりました。以前なら川越工場事務所ではできなかった管理資料の出力が、本社からもできるようになった点は大きいです」(太田氏)

「給与については、特にこの日までに処理を終えていなければならないという期限があるため、『PCAクラウド』によって場所を選ばず、業務を進められる意味合いは大きいです」(太田氏)

他にももう一つ大きな導入効果があったという。それは1名だけに負担や責任が生じる業務を、『PCAクラウド』によって分散できたことだ。

「『PCAクラウド』の複数名による同時入力によって、作業を分担できるようになりました。つまり1名だけで入力する状態を

避けることができ、総務部の従業員が等しく入力スキルを持てることになります。誰かが体調不良などで休んだ場合でも給与の支払い処理をとめずに進められます」(太田氏)

○就業時間の集計は丸1日から約1時間へ短縮。データ化し分析することで、より働きやすい環境へ

同社の工場の勤務体系は、交替制ではなくシフト制だ。勤務時間は従業員の希望や繁忙期など様々な条件によって変わるため、シフトを随時調整する必要がある。以前はこの複雑な勤務時間の集計を手作業で計算していたという。

「従業員1名ずつ勤務時間を手作業で計算していました。ある程度シフトは決まっており、前もって計算できる部分もあったから対応できていたのですが、そこに残業時間の計算を含めると集計時間はかなりかかりました。以前は丸1日かけてその計算を行う月もありましたが、『PCA就業管理Xクラウド』と『PCA給与Xクラウド』を導入してからは約1時間。丸1日から約1時間への短縮です」(総務部 経理 主任 市川裕也氏)



工場外観



営業事務所

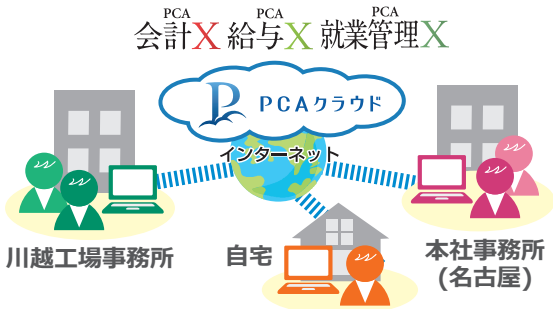


自動車用・電機用・建築用の冷間圧造部品を扱っております。

システム概況図

【Point①】

『PCAクラウド』によって、本社以外からも、複数名で同時に入力できる



【Point③】

就業管理・残業時間の給与計算が、丸1日→約1時間へ短縮

手作業で計算

工場での複雑な勤務シフト、毎月変動する勤務時間・残業時間の集計。

導入

連携

PCA 就業管理X
確実に時間を集計。

PCA 給与X
複雑な残業時間の賃金を、確実に計算。

【Point②】

自社でソフトのメンテナンスが不要

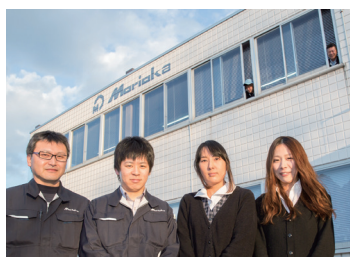
旧ソフト
「COBOL」などで
自社開発した、
会計・給与ソフト

移行
PCA 会計X

【効果】

- ① 給与計算の確実化
- ② 会計処理・給与計算の業務を滞らせない仕組みを確立
- ③ パッケージソフトにすることで、総務部の社員全員がソフトを操作できる

【効果】



写真撮影時、2階の窓から笑顔で撮影を覗き込む社員の方達がいらっしゃいました。カメラマンも思わず笑顔になる、明るい社風を感じるひとコマでした。



森岡産業株式会社 HP
http://morioka-ind.co.jp

同社では『PCA就業管理Xクラウド』と『PCA給与Xクラウド』によって就業時間管理を100%データ化したことで、それを活かした分析データも作成している。中でも実労働時間と時間外労働時間、さらに申請された残業時間をそれぞれ部署別・個人別などの一覧にし、申告漏れなどをチェック、必要に応じて所属長へ注意を促している。

「他にも『PCA給与Xクラウド』のデータから、扶養家族の年齢なども確認でき、小学校入学を迎える子供を持つ従業員がどのくらいいるのかなども知ることができます。それによって手当なども検討し、従業員が安心して長く働ける環境づくりに活かそうとしています」(太田氏)

○『PCA給与X』は直感的に操作でき、時間をかけずに入力に慣れる

『PCAクラウド』、『PCA就業管理Xクラウド』、『PCA給与Xクラウド』によって業務の効率化を確実に実現した同社だが、PCAサービスの印象について市川氏は操作のしやすさを挙げる。

「『PCA給与Xクラウド』はメニュー画面にはじまりその後の各入力画面の操作も含めて、開くとどこに何があるのかがわかりやすい為、直感的な操作ができます。私も含めて総務部の社員はPCAに切り替えて1カ月もたたないうちに操作に慣れました。サポートセンターを利用することもあります、疑問もその場で解決することが多いです」(市川氏)

同社では導入時の導入指導サービスも受けており、「導入支援で目の前で教えてもらったことも大きい」(市川氏)と評価している。同社ならではの複雑なシフトによ

る就業時間や残業時間の計算式は、導入支援時にある程度組み、その後に新しい社員が入社した際はその計算式を応用してスムーズに運用している。

今後の展望と課題

同社では今後、マイナンバー管理も含めた社会保険関連についてもPCAサービスを効果的に活用していきたいと考えている。

「マイナンバーは収集よりも管理が問題で、社会保険の申請には今後、一緒に付いて回る番号ですから注意が必要です。ただし当社はPCAによって社会保険関連もある程度データ化、システム化できたため、その点については安心しています」(太田氏)

同社では『PCA人事管理Xクラウド』の導入も検討しており、従業員の資格や年齢を分析することで、どの社員をどのように教育していけばよいのか、同社のすぐれた技術力をどのように継承させていけばよいのかといった、具体的な次世代継承に向けた対策をはかっていきたいそう。

「当社はこれまでネジ製造の分野で大きな業績を築いてきました。最近はその自動車ギアが加わり、新製品づくりへ果敢に挑戦しています。このような新しい挑戦ができる社員を増やし、同社の製品の高い精度を維持するためにも要となるのはやはり人。会計や給与のように人に密接に関わる管理業務を今後も無事に遂行するために、PCAサービスにはさらに期待していきたいです」(太田氏・市川氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740



クラウドAPI

PCA製品の柔軟性を活かして、
多品種の在庫管理・販売管理に
対応できるシステムを確立。
問屋任せにせず自社で在庫を
コントロールできる仕組みをつくる。

株式会社 コンサイス

旅行用品や文具用品、製図用品から計算尺まで手掛けている株式会社コンサイス。とりわけ旅行用品のメーカーとしては国内トップの知名度を誇っており、自社開発による優れた商品力・品質の高さで多くのファンを抱える企業だ。同社はPCA製品によって多品種の商品の販売管理を行っており、いちはやく『PCAクラウド』の価値に気付いた企業でもある。同社代表取締役社長 高橋利典氏自身が率先して効率的なシステム環境を実現してきた。その軌跡と実際の効果を伺った。

導入システム

○PCA クラウド イニシャル'0'プラン (Type72 48CAL)

- ・ PCA 商魂 X クラウド ・ PCA 商管 X クラウド
- ・ PCA 給与 X クラウド ・ PCA 会計 X クラウド

○PCA クラウド API ※1

※ 1) : 『PCAクラウドAPI』により開発した、カスタマイズプログラムが利用できるサービスです。2016年2月より、『PCA Client APIライセンス』に製品名称を変更させて頂いております。

導入の狙い

- ・サーバー管理の負担を軽減したい。サーバーレスの環境で運用したい。
- ・WMSシステム(倉庫管理システム)と連携させたい。
- ・商品を確実にコントロールできる大手企業の在庫管理・販売管理システムに、引けを取らないシステムを作りたい。
- ・複数のECサイトの受注・売上データを効率よく処理したい。

導入効果

- ・『PCAクラウド』によってサーバーレスの環境を実現。サーバー管理やサーバー入れ替えの心配は無用。
- ・PCA製品ならWMSシステムとの連携も柔軟にできる。単にデータを受け流しするだけでなく、それをクラウドという環境でより便利に連携できる。
- ・PCA製品やその他のパッケージソフトを上手に組み合わせることで、中小企業でも大手企業の在庫管理・販売管理と遜色のないシステムを構築でき、問屋任せにしない在庫管理ができる。
- ・『PCAクラウドAPI』により、全てのECサイトからの受注データがそのまま『PCA商魂X』『PCA商管』へ反映されるため合理化を図ることができる。

プロフィール

株式会社 コンサイス

- 本社・工場所在地: 〒132-0035 東京都江戸川区平井2-16-23
- 設立: 1954年(昭和29年)7月1日
- 資本金: 2,000万円
- 従業員数: 100名
- 主業種: 旅行用品の製造・卸
- 主要製品: 旅行用品、文具用品、製図用品、計算尺
- URL: <http://www.concise.co.jp>

□企業理念:

株式会社コンサイスは、円形計算尺のメーカーとして昭和29年7月に設立されました。その後、洋裁定規、製図用品、デザイン用品、旅行用品、皮革製品、ブックカバーなど高品質で機能的な製品を創り続け、多くの方々に喜んでいただいております。

現在でもコンサイスの製品は、日本の自社工場で製造することを基本としています。それは、私たちの製品には一朝一夕には真似できない技術と工夫が施されており、そこに優秀な技術者の力がなければ造ることができない製品、既製の工作機械などでは簡単に製造することができない製品が多数あるからです。

今後とも「使ってみて本当に良かった」と言っていただけるような製品を、私たちは「創り」そして「造り」続けてまいります。

導入前の運用と課題

○増える拠点と従業員。トップ自らによるサーバー管理には限界がある



株式会社 コンサイズ
代表取締役社長
高橋 利典 氏

学生時代に使った三角定規や分度器、そして旅行のスーツケースに巻くベルトや飛行機の中で使う携帯枕など、株式会社コンサイズの商品を実際に使ったことのある人は多いだろう。旅行用品の企画・販売において同社は長年日本を代表する企業として活躍しており、自社開発ならではの優れた機能性や品質で高い評価と人気を得ている。

多くの人にとってなじみのある商品を持つ企業ではあるが、その会社規模は決して大きいわけではない。代表取締役社長 高橋利典氏のもと少数精鋭の従業員たちによって構成されている。当初、高橋氏は同社にパソコンが1台もない時代に経営に加わった。そのため高橋氏自身が販売管理に適したソフト選びはもちろんのこと、サーバー管理もすべて担ってきたという。

「拠点が増えたときの新たなサーバーの設置や、クライアントPCを増やす際の設定など、当社のシステム環境は詳しい人からアドバイスを受けてつち、ほぼ私一人で作り上げメンテナンスも行ってきました。しかし営業所や従業員が増え、私一人の管理に限界を感じていました。また私がほぼ一人で管理してきたため、社内にメンテナンスができる人材を育てることもできないままでした。いつかサーバーを持たない方法ができるというなあと考えていたところ、PCAが先駆けてクラウドサービスを開始し、PCAソフトを選んでおいてよかったなあと感じました」(高橋氏)

選定のポイント

○パソコンが1台もない会社にも、わかりやすくソフトの説明をしに来たPCA

同社では『PCAクラウド』を導入する以前から、『PCA商魂』『PCA商管』『PCA会計』によって販売管理や会計処理を行ってきた。同社がPCA製品を導入したいきさつには営業姿勢が影響したエピソードがある。

「新しく何かを導入する際には、いつも必ずしっかり比較検討してから決めています。会計ソフトの選定についてもPCAを含めて大手ソフトウェアメーカーにはほぼ問い合わせました。ところが当時は社内にパソコンが1台もない状況。それを伝えたせいなのか、説明にすら来てくれないメーカーが多かったです。しかしPCAはその状況を伝えても、ちゃんとここに来て詳しくソフトの中身について説明してくれました。他社メーカーの説明会にも参加したのですが、正直、ソフトの中身に大差はないという印象でした。最終的には当社に足を運んでわかりやすい説明をしてくれたPCAを選び、結果、『PCAクラウド』のサーバーレスのメリットも得られました」(高橋氏)

○WMSシステム(倉庫管理システム)とのフレキシブルな連携

オンプレミスでPCAソフトを運用していた同社が『PCAクラウド』を導入したきっかけには、メンテナンスの負担軽減以外に、新しいシステムとの連携も視野にあった。多品種かつ大量の商品を抱える同社にとって入在庫や在庫、配送などの物流も含めた倉庫管理は極めて大きな意味を持つ。そこでWMSシステム(倉庫管理システム)との連携が可能な点も『PCAクラウド』の決め手になったという。

「当社のWMSシステム+『PCAクラウドAPI』+『PCA商魂Xクラウド』の受注データの取り込み。この連携ができることは、多品種を取り扱う以上必須だと考えました。この連携が柔軟にできる点も選定のポイント



本社・工場外観

に入れ、実際に今、この連携システムは稼働しています」(高橋氏)

導入後の効果

○『PCAクラウド』なら新しい拠点・営業所の設置にも柔軟に対応できる

同社では現在、『PCA商魂Xクラウド』『PCA商管Xクラウド』『PCA会計Xクラウド』『PCA給与Xクラウド』を、江戸川区の本社・大阪も含めた各営業部・物流センターと結び、同時接続台数48台という規模で運用している。比較的大きな規模で『PCAクラウド』を運用しているが、これまでほとんどトラブルもなく順調に使えている。

『PCAクラウド』を導入して、メンテナンスの軽減以外にも大きなメリットがありました。まずは拠点を増やす際に、クラウドによってなるべく費用を抑えて安定したネットワークが築けること。またサーバー更新の心配がまったくなくなったことです。自社でサーバーを持つと、パソコンのOSのバージョンアップにも注意が必要になります。セ

キュリティ面からも最新のOSを自分たちの都合にあわせていつでも使えるようにしたいわけですが、自社サーバーなら容量やレベルを見てからになります。サーバーを入れて2、3年も経てば常に更新に追われている感じがありましたが、これがなくなったことは大きいです」(高橋氏)

○約10個のECサイトの受注・売上データを『PCA商魂Xクラウド』『PCA商管Xクラウド』へ連携

同社は登録している商品数が約2万件以上。そのうち常時動いているのは4,000～5,000件ぐらいだが、商品の在庫を含むと約100万個にのぼる。この膨大な商品数を到底手入力では処理しきれないため、当初からデータ連携ができることは大前提だった。

現在同社では自社が運営するECサイト、さらに大手ポータルサイトの運営するECサイトなどを含め、約10個のECサイトを持っており、そのECサイトでの売上データは『PCA商魂Xクラウド』『PCA商管Xクラウド』へ受け入れている。この連携によって時間的な効率化はかなり図られたという。



本社の製品展示室

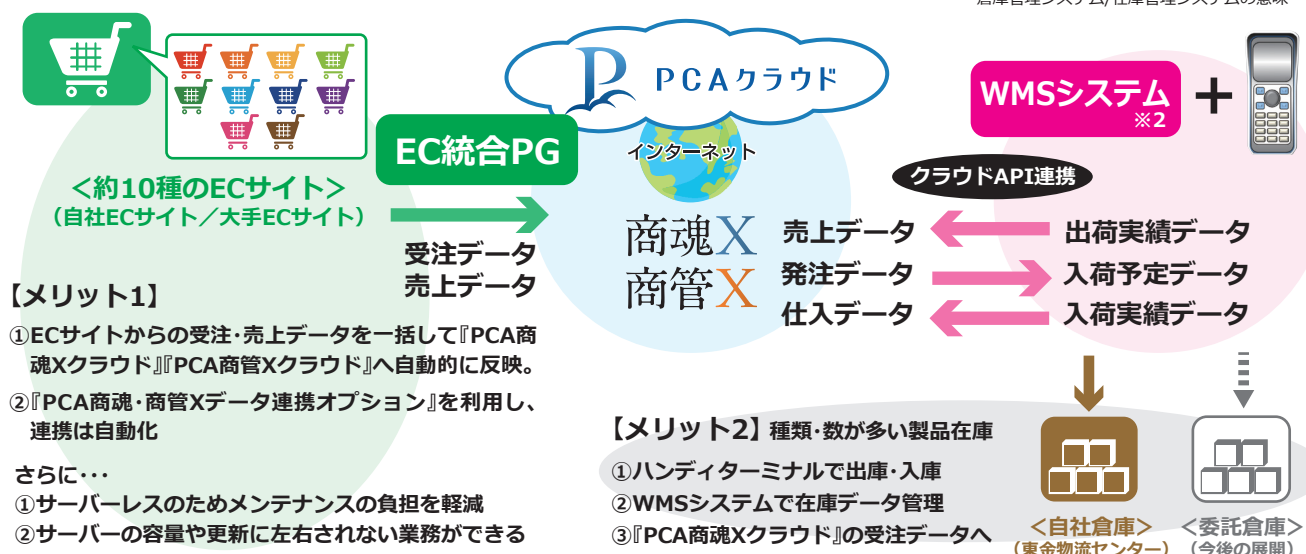


製造・販売する旅行用品

システム概況図

PCA製品の柔軟な連携によって

※2 WMS=Warehouse Management Systemの略で
倉庫管理システム/在庫管理システムの意味



「以前はECサイトの受注・売上管理はサイト1つごとに行っており、かなりの時間がかかっていました。今はすべてのECサイトの受注・売上管理をまとめて処理できる『PCAクラウドAPI』を使い、『PCA商魂Xクラウド』『PCA商管Xクラウド』とを連携させています。ECサイトからの注文はデータで届き、それがそのまま『PCA商魂Xクラウド』『PCA商管Xクラウド』へと自動的に反映され、しかもこれを『PCAクラウド』によって処理できる。ECサイトでの売上がとても大事な時代ですから、このような連携ができることは助かります。事務処理面の合理化はしっかりと果たせています」(高橋氏)

○WMSシステム+『PCA商魂Xクラウド』で多品種の在庫を管理

『PCAクラウド』導入のきっかけにもなったWMSシステム+『PCA商魂Xクラウド』の受注データの取り込みは1拠点目が軌道に乗り、現在2拠点目での運用を開始しようとしているところだ。

まず倉庫ではハンディーターミナルによって入荷・出荷を確認。→その在庫データはWMSシステムによって集計・管理。→倉庫管理の入出荷実績データは「PCA商魂X・商管Xクラウド」の売上データ・仕入データとして自動的に取り込まれ、受注残・発注残データが消込される。

「在庫数がとにかく大量なので外部倉庫を使っている物もあり、その部分はまだ連携できておらず、手入力部分をどれだけ減らしていけるかを考えているところです。当社のこのシステムが我々の望むレベルに達したなら、より一層の便利さを実感できると思います。加えて多品種で大量の商品を抱える中小企業の在庫管理・販売管理のモ

デルケースにもしていただけたと思っています。中小企業でも大手企業に負けない、適切で確実な出荷業務が確立されるわけですから」(高橋氏)

今後の課題と展望

○問屋任せにせず自社で在庫をコントロールしたい。そのシステムを中小企業でも確立できる

同社ではこれまでPCA製品を始めとする新しいシステムやソフトを導入する際には、慎重な比較検討だけでなく、確実に運用するために導入時にインストラクターの指導をしっかりと受けるなど、着実に準備を行ってきた。

「私は特別IT知識が豊富というわけではありません。ただし失敗はしたくありませんし、余計なお金はかけたくないですからね(笑)。在庫管理については問屋さんに丸ごと投げている会社も多いと思います。しかし私は自社のことは自分でコントロールしたいと思ってきました。大手企業のように何億円もかけて在庫管理システムを構築することはできませんが、このようなパッケージソフトをうまく組み合わせていくことで、問屋任せにしない在庫・販売管理ができます」(高橋氏)

旅行業界は景気だけでなく社会情勢によっても旅行客の数が変動し波のある業界だという。そんな中でも同社のこだわりの製品は多くの人から支持されてきた。今後も特徴である優れた商品開発力と、若手への高い技術力の継承も行いつつ、他社のモデルケースになるような在庫・販売管理システムも確立していきたいと高橋氏は力強く語った。



(株)コンサイス HP
http://www.concise.co.jp

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

クラウドAPI

『PCAクラウドAPI』によって
『PCA商管X クラウド』+FAX複合機を連携。
発注業務の大幅な見直しを行い、
コンプライアンス体制を実現。

浜北工業株式会社

世界初の工コ鑄造工法を生み出すなど、次世代の鑄物メーカーとして知られる浜北工業株式会社。大手
発動機メーカーの関連会社でもあり、二輪・四輪部品を軸から支えている企業だ。同社では長年、発注業
務を“口答”で処理してきたが、その流れを大きく見直し、確実なコンプライアンス体制を築くことを決
断。そこで導入されたのが『PCAクラウドAPI』『PCA商管X クラウド』だ。なるべく低いコストで、かつ2
か月の短期間で本稼働へ移行したこのシステムによって、発注業務は大きく効率化・確実化されている。

導入システム

- PCA クラウド プリペイドプラン (Type6 3CAL)
- ・PCA 商管 X クラウド
- PCA クラウド API ※1

※ 1):『PCAクラウドAPI』により開発した、カスタマイズプログラムが利用できるサービスです。
『PCAクラウド』のみならず、パッケージ版にもご利用いただけます。

導入の狙い

- ・口答での発注管理では公正性・透明性に欠けるため確実な発注システムを確立したい。
- ・確実で安全なデータ保存を実現したい。
- ・なるべく低いコストでシステムを導入したい。

導入効果

- ・『PCAクラウドAPI』『PCA商管X クラウド』によって、承認機能を持つ発注システムを確立。発注書のFAX送信まで自動化することで、公正性・透明性を確保。
- ・複合機へのデータ保存に加えて、『PCAクラウド』のバックアップ機能によって大切なデータを確実に保存。
- ・パッケージソフト『PCA商管X クラウド』の良さを活かし、『PCAクラウドAPI』を利用したカスタマイズによって予算内の費用で承認システムを実現。ライセンス費用も同時アクセスライセンスのため、28台の利用でも3CALのみの利用料で大幅なコストダウンを実現。

プロフィール

浜北工業株式会社

- 所在地:〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅1066
- 設立年月:昭和42年12月10日
- 資本金:4,295万円
- 従業員数:73名
- 主業種:鑄鉄鑄物部品製造業
- 業務内容:普通鑄鉄(FC鑄鉄)・ダクタイル鑄鉄(FCD鑄鉄)部品の製造
- URL:<http://www.hamakita.jp>

□主な事業内容:

弊社では金型を使った砂型鑄造を行っております。様々な材質を扱っており、FC鑄鉄はFC200・FC250・FC300、ダクタイル鑄鉄(FCD鑄鉄)はFCD400・FCD450・FCD500・FCD600・FCD700、その他にも特殊材質としてバナジウムや銅・クロムを添加した耐摩耗性に優れた材質や排気系の耐熱鑄物部品に使われるニレジスト(ダクタイル鑄鉄タイプ)・ハイシリコン鑄鉄(モリブデン添加)やカムシャフト専用材(FCD700相当)など16種類以上の材質を常時生産しております。

様々な材質の中からお客様のニーズに合った材質をご提案させていただきますので是非ご相談下さい。

また鑄物素材だけでなく、加工完成(機械加工・塗装・熱処理)でもご相談を承ることが出来ますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

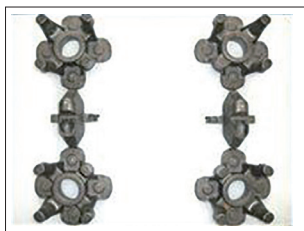
(浜北工業株式会社 HPより)



浜北工業株式会社
業務部 管理課 課長
粟野 仁志 氏

■世界初のエコ鋳造法 「HYPER CAST」

浜北工業株式会社では、方案部の溶湯量を50%削減を可能とする超高歩留り工法「HYPER CAST」を開発しました。従来の重力鋳造とは違い、減量注湯後に圧縮空気と砂を吹き込む事により湯口・湯道分の溶湯を削減させ、溶解エネルギーの大幅な削減を実現しました。従来の鋳物づくりを大きく覆す次世代型エコ鋳造法です。



導入前の運用と課題

○公正性・透明性のある発注システムをつくりたい

静岡県浜松市に本社工場を構える浜北工業株式会社。大手発動機メーカーの関連会社であり、世界で初めてのエコ鋳造法『HYPER CAST』も開発している歴史ある企業だ。同社では長年、発注業務については現場に慣れた各発注担当者の口答での指示・確認に任せていた。

以前の発注の流れを振り返ると、まず各担当者が電話でのやり取りの中で出た口答の数字で見積りを取得。その後の業者への発注も口答で行い、納品時に業者側が手書きで金額を記入していた。上司への承認も納品後に口答での確認だったため、発注金額は現場の担当者に一任している状況だった。しかし関連会社からこの従来の発注フローについてのコンプライアンス問題を指摘されてしまった。

「当初、コンプライアンスは大企業の話だと思っていたのですが、当社は世界的発動機メーカーの関連会社でもあり、現在は会社の規模を問わずにすべての企業においてコンプライアンスが問われる時代になっています。じつは社内でも公正性・透明性という面でこのままの発注フローではいけないという声はあがっていました。そこで当社のシステムを依頼している日本デジコム株式会社へ相談しました」（業務部 管理課 課長 粟野仁志氏）

導入後の効果

○『PCA商管Xクラウド』と複合機の連携で、スピーディで間違いのない発注システム

浜北工業株式会社が新しい発注システ

ムを日本デジコム株式会社へ依頼するうえでこだわったのが、まずは口答確認の問題を解決するための「確実な承認機能」、そして「安心できるデータ保存」、さらに「なるべく低い予算で稼働できるシステム」という点だった。そこで日本デジコム株式会社が提案したのが『PCAクラウドAPI』を利用して『PCA商管X クラウド』と複合機を連携した発注システムだ。

新しい発注システムでは、まず見積額が決まると『PCA商管X クラウド』に入力。するとすぐに上司承認が行なわれ、承認OKが出ると発注書は複合機から自動的に業者へとFAXされる。データとして「承認済発注一覧」と「発注書FAX送信」の履歴が蓄積され、共有フォルダの中に発注書がPDFで保存されていく。支払明細書も同様にFAX連携機能を使うことで、『PCA商管X クラウド』から支払明細書の自動FAX、データとして「締め処理履歴一覧」と「支払明細書FAX送信」の履歴が残り、支払明細書のPDFが共有フォルダに蓄積される。承認がなければ発注はできず、手書きや口答によるミスも発生しない。さらに電話を受けてから発注までの時間も飛躍的に短くでき、何よりもデータとして確実に残る。

「以前は書類の保管についてもルールが徹底しておらず、保管する場合も紙の状態でしたが、今は自動的にデータとして保存できます。出力した紙の保存スペースに困ることもなく、加えて『PCAクラウド』ですから大事なデータをPCAのデータセンターでも保存できるという安心感があります」（粟野氏）

○28台のパソコンから『PCA商管Xクラウド』への入力が可能。 1人に作業が集中しない環境に

現在、浜北工業株式会社では28台のパソコンに『PCA商管X クラウド』がインストールされており、営業部門だけでなく仕入れ部門など様々な部署で利用されている。

『PCAクラウド』は同時利用台数で料金を設定しているため、インストールは何台にしてもOKです。以前は入力できるパソコンが1台という状況で、日によっては入力の順番待ちになることもあり、本当に効率が悪かったです。しかし今は各自のパソコンから入力ができるため、以前のような非効率な状況もなくなりましたし、インストール台数を増やすことで1人の担当者に作業が集中しない環境もつくれました」（栗野氏）

共有フォルダに蓄積される発注書PDFや支払明細書PDFは、一部を除いて誰でも取り出せ確認できる。それは管理課に集中していた煩雑な検収業務の軽減にも繋がった。

「以前は発注金額の確認やその後の検収のたびに、過去の資料をめくりながら確認していました。今もその作業は変わらず行っているのですが、仮に間違いがあってもクラウドなのですぐに修正できますし、修正とほぼ同時に承認もできます。セキュリティ面も安心しており、システムにはアクセス制限をかけており、自己承認はできません。口答や紙で処理していた頃は印鑑さえ押してあれば管理課は承認されたものとして処理するしかありませんでした

が、今は間違いなく上司承認ができる点は大きなメリットです」（事業部 管理課 袴田 博子氏）

○『PCAクラウドAPI』なら、低いコストでそれぞれの企業に沿ったシステムを構築しやすい

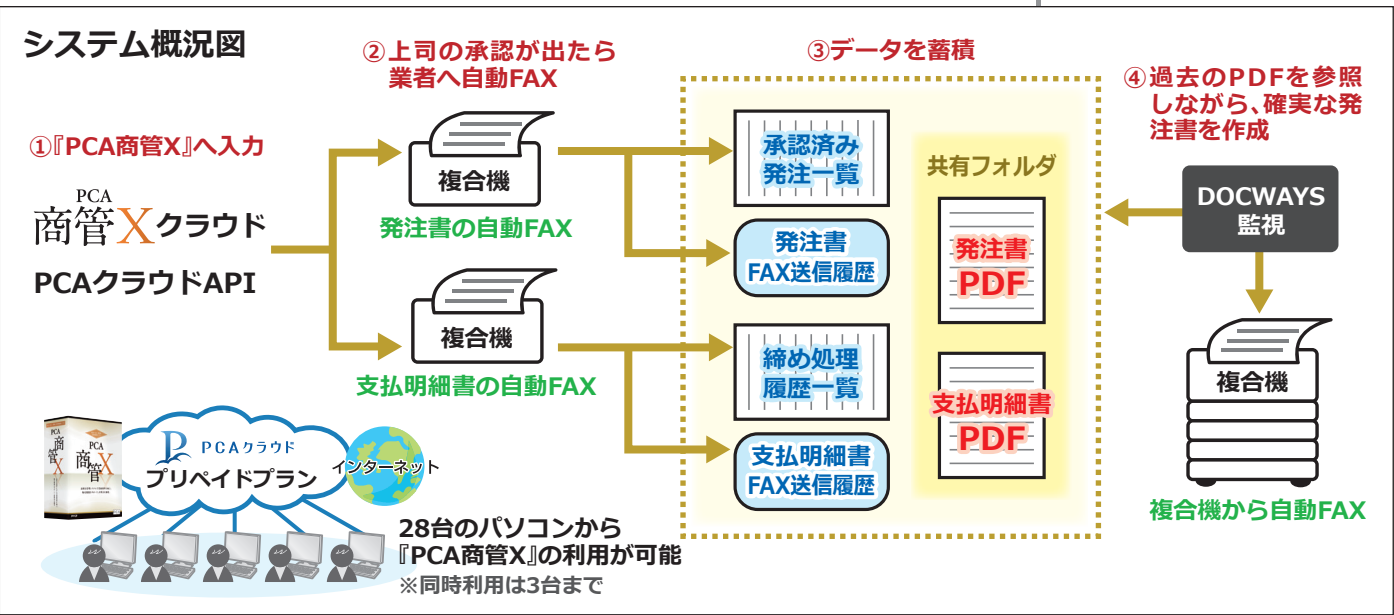
浜北工業株式会社が『PCAクラウドAPI』と『PCA商管X クラウド』を導入したのは2013年10月。2014年4月には消費税の引き上げがあったが、その際もスムーズに移行できたという。この点を栗野氏は「様々な法改正や税制改正に対応しやすいのがパッケージソフトの利点」だと評価している。

また日本デジコム株式会社の小楠敏弘氏は、最初からすべてを開発していくスクラッチ開発では費用がかかってしまうが、『PCAクラウドAPI』とPCAのパッケージソフトを使うことで低いコストでも十分な機能を備えたシステムを導入できたと語る。

「浜北工業様が望んでおられた確実な承認機能を持つ発注システムを、予算内で構築でき、かつご相談をいただいてからわずか2カ月で本稼働へと進めることができました。管理課のお二人の協力があった



日本デジコム株式会社
小楠 敏弘 氏



こそこの短期間での納品でしたが、“承認機能を持つ発注システム”というピンポイントをまずは押さえつつ、PCAソフトを使ったコンパクトなシステムを導入することができました。PCAならではの快適性も活かしたうえで、それを調整しつつ提案したシステムを高く評価していただいていることをうれしく思います」(小楠氏)

○『PCA商管Xクラウド』はExcel®への出力・受入も簡単。さらに便利な機能を使いこなしたい

希望通りのスムーズで確実な承認システムを導入した同社だが、『PCA商管Xクラウド』の機能を今後はさらに使いこなしていきたいと語る。

「『PCA商管Xクラウド』でいつも便利に感じているのはExcel®への変換のしやすさです。主に発注残の確認をするときにExcel®への出力を行います。簡単に変換できるのは助かります。当社独自の使い方としては、商品マスターの登録の場合に、すべての製品を登録するのではなく単発で発注する物については勘定科目として登録し処理しています」(袴田さん)

現在は発注・仕入伝票の確認、Excel®との互換性を活かした発注残の確認、そして仕入明細表などが『PCA商管Xクラウド』で使っている主な機能になる。管理課としては今後は分析機能も使って、月の半ばにはある程度の数字を把握できるようにしたいと考えている。

「おそらく私たちが知らない便利な機能が『PCA商管Xクラウド』にはたくさんあると思いますが、なかなかそれらを知る機会がありません。例えばある程度PCAソフトに慣れた人向けに、さらに有効に便

利な機能や分析機能など利用できる使いこなしセミナーなどがあるといいですね」(栗野氏・袴田氏)

今後の展望と課題

○マイナンバー制度導入への対策も検討中

今後、同社ではマイナンバー制度導入に備えて人事関連システムも見直していきたいと考えている。

「現在、就業管理はなんとかできているものの社員データが入っておらず、このままではマイナンバー制度に対応できないと考えています。Excel®データや紙の書類など今はばらばらになっている個人情報を一つに集約して管理していきたいと考えているところです」(袴田さん)

高く評価されている日本のものづくりを、軸から支えている同社。エコ鋳造法『HYPER CAST』は25%もの溶湯量・溶湯にかかるエネルギーを削減した方法で、量産化に成功し、今後、どんどん広げたいと語る。PCAの発注システムのみならず人事関連システムも視野に入れて、さらなる業務の効率化を図り、同社の高い鋳造技術をさらに大きく展開していきたいと両氏は語る。



浜北工業株式会社 HP
http://www.hamakita.jp



『PCAクラウド』による業務の標準化で
従業員の意識も改革。
勢いある製造業メーカーの
会計・給与と製造業務を
PCAソフトを活用して迅速・確実に処理

愛知ドビー株式会社

1936年、戦前に創業した愛知ドビー株式会社。繊維機械やドビー機の開発・製造から始まり、その後は産業用機械部品の鋳造・機械加工と、時代の変遷に応じた技術力で業績を築いてきた。そして現在、“世界最高の鍋”とも評される『バーミキュラ』を生み出した企業として、多くのメディアからも注目されている。そんな話題の企業の会計・給与・製造管理業務に選ばれたのがPCAだ。クラウド化は業務をスマートにただけでなく、従業員の意識を変えるきっかけにもなったようだ。

導入システム

○PCAクラウド プリペイドプラン (Type2 2CAL)

- ・PCA 会計 9V.2R7 for SaaS
- ・PCA 給与 9V.2R7 for SaaS
- ・PCA 商魂 9V.2R7 for SaaS
- ・PCA 商管 9V.2R7 for SaaS

導入の狙い

・複数名による同時接続を可能にすることで1人に偏っていた業務の負担を軽減したい。

・経営分析のためのデータ抽出・資料作成を迅速に行いたい。

導入効果

・『PCAクラウド』によって業務の標準化に成功。複数名が同時に入力でき、時間的な効率化も進んだ。

・9V.2R7シリーズへのバージョンアップによって、抽出・検索機能が強化。CSVデータの一括アップロードも可能に。

プロフィール

愛知ドビー株式会社

- 本社/本社工場:〒454-0821 愛知県名古屋市市中川区宗円町1-28
- 第2工場:〒454-0036 愛知県名古屋市市中川区二女子町4-14
- 創業:昭和11年11月
- 設立:昭和22年5月
- 資本金:16,500,000円
- 従業員数:68名
- 事業内容:産業機器部品等の鋳鉄鋳造及び機械加工
- URL:<http://www.a-dobby.co.jp>

22世紀も選ばれる企業へ。

<愛知ドビー(株)HPより>

当社は、1936年の創業以来、鋳造・機械加工技術の研究に努め、繊維機械・ドビー機の開発・製造においては業界にゆるぎない地位を築いてまいりました。これもひとえに皆様方の絶大なる御支援のたまものと厚く御礼申し上げます。今日では社会のニーズは激変し、産業機械部品の分野においても、「より良いもの」を「より安定的」に「より安く」のニーズは高まる一方です。(代表取締役社長 土方邦裕)

当社では「鋳造～最終機械加工」までの一連工程と、「長年の技術・開発力」、「最新の設備」をもって、お客様に喜んでいただける製品づくりに努めてまいります。22世紀までも「お客様」・「地域社会」・「従業員」から選ばれる企業を目指して、社員一丸となって取り組んでまいります。(代表取締役副社長 土方智晴)

※ 2012年10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



本社外観



愛知ドビー
営業部・総務部 統括部長
森 祐介氏



オフィス風景

導入前の運用と課題

○業務を標準化し、経営戦略も迅速に立てられる体制を実現したい

“究極の無水調理を実現するメイド・イン・ジャパンの鋳物ホーロー鍋”として人気を呼んでいる『VERMICULAR(バーミキュラ)』。密封性を極限まで高め、無水調理によって野菜の栄養と旨みを取りこぼすことなく味わえる最高品質のお鍋だ。料理に詳しくない人でも、愛知ドビー株式会社の名を聞いた人は少なくないだろう。産業用機械部品の鋳造下請け企業にとって厳しい状況が続くなか、同社は『バーミキュラ』という自社商品のヒットによって新しい活路を見出し、その成功は各メディアでも取り上げられている。

そんな歴史も深く、話題も豊富な同社では、10年以上前からPCAソフトが導入されてきた。会計・給与・製造管理業務と管理部門をほぼカバーし、問題なくスムーズに利用されてきたが、2012年に『PCAクラウド』を導入した。

現在、クラウドによって『PCA会計9V.2R7』『PCA商魂9V.2R7』『PCA商管9V.2R7』『PCA給与9V.2R7』を利用している。『PCAクラウド』の導入のきっかけを、営業部・総務部 統括部長の森祐介氏は、次のように振り返る。

「PCAソフトを10年以上前から使ってきましたが、以前のバージョンでは思うようなExcel®出力ができませんでした。私どもとしては、過去の実績を調査して新しい戦略に生かしたいのですが、そのたびに紙を出力して一から分析資料を作らなければならないのがストレスでした。またスタンドアロンのままでは、操作できる人間が複数名いても、そのパソコン自体が空いていなければ入力できません。結局、使用するのは毎回同じ従業員ということになり、

業務を標準化できない点も問題でした。これらをクラウドにすることで、大きく改善できると考えたのです」

選定のポイント

○複数の人間が同時に複数台からアクセスできる『PCAクラウド』

クラウド化については、PCAからの提案ではなく、森氏自身の働きかけが大きかったそうだ。

「複数の人間が同時に利用できる方法として、単にスタンドアロンの台数を増やすことよりも、ネットワーク化して利用できるシステムがあるのではないかと思います。そこで調べてみたら、複数台のパソコンから同時に利用できる『PCAクラウド』にたどり着いたのです」

クラウドを導入するにあたっては、情報漏えいへの防止策やセキュリティ、万が一のトラブルに対応できるかどうかの不安を懸念する企業もある。しかし森氏は「そのような不安に対して、しっかりと保証するのが会計ソフトメーカーの当然の仕事」ととらえ、特に大きな心配はなかったという。しかし回線環境による処理速度については、スタンドアロンに比べ時間がかかることはあらかじめ想定していたそうだ。

「1年以上クラウドを利用してきた率直な感想として、処理速度はもう少し速くなるとありがたいですね。しかしデータの安全性や信頼性という点では問題なく安心して利用できています」

導入後の効果

○製造業に向いているPCA。『PCA商管9V.2R7』『PCA商魂9V.2R7』で製造管理業務に対応

製造業の場合、生産管理が複雑になるため自前のシステムなどを利用している企業も多い。しかし同社の場合は、製造管理業務もPCAソフトのみで処理している。「製造業でもPCAが使える」という前評判があり、同社がかなり以前からPCAソフトを導入してきたのも、その評判があったからこそだ。実際に製造管理業務は『PCA商管9V.2R7』『PCA商魂9V.2R7』によって問題なく行われている。

「正確にはExcel®と『PCA商管9V.2R7』『PCA商魂9V.2R7』を組み合わせることによって製造管理業務を行っています。当社の場合、年1回の棚卸のために在庫管理の必要性はあまりなく、仕入の作業もほとんど発生しません。当社に関しては、PCAソフトで十分対応でき、特別なカスタマイズなども行っていません」

原価管理についても『PCA商管9V.2R7』の仕入管理の集計で基本的に把握できている。製造原価報告書は月次で作成されているが、これも『PCA会計9V.2R7』からあつという間に作成できるそうだ。

○Excel®出力や汎用データの作成・受入への柔軟性を高く評価

このように欲しいデータや帳票を時間をかけずに作成できるのは、PCAソフトからExcel®データへの出力が容易にできる点が功を奏している。同社の場合も、一例として様々な分析資料の基本となる受注明細についてExcel®出力し、経営分析に役立てている。また汎用データの作成・受入ができる点も、業務の負担を大きく軽減してくれたと森氏は語る。

「PCAを利用して『ここは非常に助かった!』と実感できたのが、『PCA商管9V.2R7』『PCA商魂9V.2R7』でCSVデータを一括でアップロードしマスター登録できたときでした。仮にこの一括アップロードができず、一個ずつマスターを書き換えなければならなかったとしたら、想像しただけでもぞっとします(笑)」

汎用データの作成・受入では、CSV形式のカンマ区切りデータだけでなく、タブ区切りデータも選択できる。そのデータを部門コードや商品コード、得意先コードなどの項目に割り当てるかも受入時に指定できるので、様々なレイアウトのデータを柔軟に取り込むことができる。

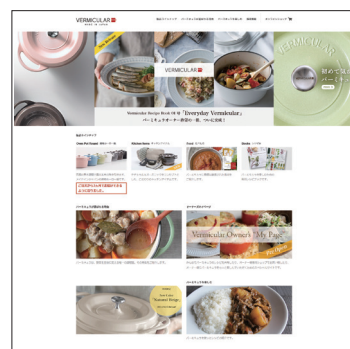


■スペシャルオーダーネーミングサービス
特別オーダーメイドのネーミングサービスを承ります。大切な方へのプレゼントや、自分だけのオリジナルをお持ちになりたい方へ。



■リペア(再ホーローコーティング)サービス ※有料サービス

ホーローを全て剥がし、もう一度ホーロー加工することで、新品同様に生まれ変わります。この際、カラーを変更することも可能です。



Vermicular(バーミキュラ)公式サイト
<http://www.vermicular.jp/>

システム概況図

『PCAクラウド』によって、2台のパソコンから同時に接続・入力が可能。





『VERMICULAR(バーミキュラ)』は世界初のパールホーロー塗装の全7色。22cmと18cmの2サイズを展開。



愛知ドビー株式会社 HP
http://www.a-dobby.co.jp

○『PCAクラウド』による業務の標準化は、従業員の意識も変えた

『PCA給与9V.2R7』『PCA会計9V.2R7』についても概ね評価は高い。『PCA給与9V.2R7』については基本的な業務の給与入力から社会保険提出書類の作成まで、ほぼフルに活用している。年末調整などは間違いがあってはならないため、サポートセンターに問い合わせながら処理を行ったそうだが、その際のサポートセンターの対応も問題なかったと語る。

『PCA会計9V.2R7』では仕訳入力や残高試算表、補助元帳などの日常的な処理が中心となっており、予算入力などはあえて行っていないそうだ。というのは、現在、勢いがあり画期的な事業を進めている最中の同社にとって、予算という枠組みで縛ることを今は避けているからだ。

このようにPCAソフトを、自社の業務に合わせて機能をチョイスし、巧みに利用している同社。そこに『PCAクラウド』を加えることで、従業員の意識も変えられたと森氏は語る。

「スタンドアロンのときは、入力する人間がどうしても限定されてしまい、『あの人しか触ってはいけないのでは』という雰囲気がありました。しかしクラウド化することで、いつでもだれでも自分のパソコンから気兼ねなく入力できるようになり、以前のような硬直化した意識が変わりました。結果、1人にかかっていた負荷を軽減でき、経営リスクも分散できたわけです」

森氏は以前、大手自動車メーカーの経理部で、自社設計の経理システムを利用していた経験がある。そんな森氏にPCAのパッ

ケージソフトはどのように映っているのかを率直に伺ってみた。

「PCAのパッケージソフトを使うことで、最初の入力段階から最後の決算に至るまで、業務のフローをよく理解できるようになったと思います。本来の会計の流れを全部見ることがができますからね」。その全体の流れを見た上で、自社にとって必要な機能をうまく選択しているのが同社のやり方だ。

今後の展望と課題

○業務を改善・スマート化し、お客様対応や開発へより一層注力していきたい

ヒット商品『バーミキュラ』の淡いパステルカラーは、カドミウムを排除した結果生まれた美しい色で、消費者はもちろん従業員や周囲の住人への配慮だったという。美味しく料理できるお鍋として、ますます人気が高まっており、同社の業務は今後さらに多忙となりそうだ。だからこそ、PCAソフトによって管理部門の業務を改善・スマート化し、その分、お客様対応や新しい開発へ注力していきたいと森氏は語る。

今後は『PCA X クラウド』の利用者だけが使用できる、iPhoneやiPadを用いた『PCA商魂』の「得意先照会」や『PCA会計』の「出納帳入力」「出張旅費精算」が可能なスマート・デバイス機能の活用なども検討していきたいそうだ。

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見 1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。

2016.03.01



複雑な製造業の販売管理業務にも適用できる『PCAクラウド』を導入。BCP(事業継続計画)も考慮でき、コスト・メンテナンス・人的負担もクラウドによって軽減。

株式会社 鍍研

創業 50 年以上の歴史を持つ株式会社鍍研(とけん)。金属の表面処理においては、国内では数少ないトータルに処理できる企業として知られている。薬品容器のリサイクルを他社に先駆けていち早く事業化するなど、次々と新しい事業を展開中だ。そんな先見の明を持つ同社が選んだのが『PCA クラウド』。東北各県に点在する営業所と本社を繋ぎ、販売管理・仕入在庫管理・会計をシームレスに連携させている。常に見据えて進んでいる企業にとって、クラウドがどのような効果をもたらしたのか伺った。

導入システム

○PCA クラウド プリペイドプラン (Type24 12CAL)

- ・ PCA 商魂 9V.2R7 for SaaS
- ・ PCA 商管 9V.2R7 for SaaS
- ・ PCA 会計 9V.2R7 for SaaS
- ・ PCA 給与 9V.2R7 for SaaS

導入の狙い

- ・ 埼玉本社と東北各事業所から、複数台をよりスムーズに同時接続させたい。
- ・ 震災や停電などの万が一の事態でも、データに損傷が出ないようにしたい。
- ・ サーバー維持にかかるコストや人的負担を軽減したい。
- ・ 複雑な生産販売の管理ソフトをオーダーメイドすると高額になるので、できればパッケージソフトで代用したい。
- ・ クラウド導入後の費用も、できるだけ抑えたい。

導入効果

- ・ 『PCA クラウド』へ切り替えたことで、以前より多くの台数から安定した同時接続が可能に。
- ・ 『PCA クラウド』ならウィルス対策も万全。災害時のバックアップも安心なため、BCP の観点からもリスクが軽減。
- ・ 『PCA クラウド』によってサーバー維持にかかるコストや人的負担を軽減し、経営リスクの軽減にも繋がっている。
- ・ PCA ソフトはカスタマイズの拡張性や柔軟性が特徴。バージョンアップによってカスタマイズなしでの運用も可能。現在、PCA ソフトのみで複雑な生産系販売システムを管理。
- ・ 導入後のバージョンアップは無償で行える。

プロフィール

とけん 株式会社 鍍研

- 本社 : 〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 4811
- 営業所 : 栃木、福島、山形、秋田
- 設立 : 1953 年(昭和 28 年)
- 従業員数 : 28 名
- 業務内容 : 鍍金薬品・表面処理薬品の販売
鍍金設備・廃水処理設備の設計製作
- 資本金 : 40,000,000 円
- 所属団体 : 日本鍍金材料商組合
- URL : <http://www.token-j.sakura.ne.jp/>

株式会社鍍研は、鍍金薬品、工業薬品の販売を通じて、お客様をさまざまな面からサポートします。

□事業内容 :

「表面処理全般」
材料・設備・機器・治具・備品を販売しております。商品に関しましては、常に大局的な視点からお客様にベストの商品を見極め、商品説明を通しお客様の仕入計画をご支援させていただきます。

当社は設立から 50 年、一貫してより良い商品の提供とアフターサービスの充実に努力してまいりました。50 年の間に培った豊富な知識と経験でお客様にあった設備を設計・施工いたします。施工後はメンテナンスのエキスパートが対応いたします。安心してお任せ下さい。

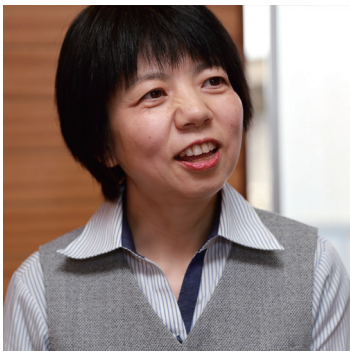
本社外観



※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



株式会社 鍍研
代表取締役
田口 利美 氏



株式会社 鍍研
総務
田村 悦代 氏

導入前の運用と課題

○東日本大震災が“サーバーレス”検討のきっかけに

株式会社鍍研（とけん）ではクラウド導入前から長年 PCA 製品を使用してきた。当初、他社製品も比較検討されたが、PCA ソフトは見積書や納品書などを自由に編集できるフリーフォーマットの機能が充実しており、全般的に柔軟性の高い製品だと感じたようだ。そこで6年前に『PCA 商魂 8V.2』『PCA 商管 8V.2』を導入。本社内に DB サーバーを置き、社内ネットワークを利用して各営業所と繋ぎ、業務を行っていた。しかし社内サーバーを利用したシステムについては、不安もあったと総務 田村悦代氏は語る。

「サーバーは管理やメンテナンスが必要になってきます。また東日本大震災もサーバーレスを大きく意識するきっかけになりました。当社は福島・山形・秋田・栃木など東北や北関東に営業所を置いています。震災時、福島営業所は建物が被害を受け、パソコンも床に落ちて使えませんでした。もしこのような事態が埼玉の本社で起こったなら非常に大きな損害になります。地震以外にも突然の予期せぬ停電なども想定されます。そのようなリスクを取り除くという意味で、『PCA クラウド』に注目し、社長に導入を提案しました」（田村氏）

2012年8月に『PCA クラウド』を導入。クラウド導入前からネットワーク環境はすでに整っていたためデータ移行もスムーズで、問題なく新しいシステムに移行した。

導入後の効果

○複数拠点から同時接続し、見たい数字を瞬時に確認

同社は現在『PCA 商魂 9V.2R7』『PCA 商管 9V.2R7』『PCA 会計 9V.2R7』『PCA 給与 9V.2R7』を使用しており、12台のパソコンが『PCA クラウド』によって同時接続できる環境だ。給与は本社でまとめているため1台で使用しているが、その他の販売管理、仕入・在庫管理、会計などに関するデータは、埼玉本社・東北および北関東の各営業所・関連会社・本社営業担当者の各パソコン、そして社長の自宅から同時に接続し利用している。

実際に営業で各地を飛び回っている専務取締役 田口利一氏は、クラウド導入のメリットを“数字を見る”という点で、非常に助かっています」と語る。

同様に代表取締役 田口利美氏も、いつでもどこでも知りたい数字を確認できる便利さを実感しているようだ。

「自宅のパソコンから毎日の売上を確認できます。『商魂』『商管』『会計』をクラウドで使用しており、売上だけでなく、ほとんどの知りたい数字を確認できます。そのため会社に来なくても業務の指示を出せますし、会社で処理しきれなかった業務を自宅で引き続き行えます。当社では現在、世代交代を進めており、若い従業員たちにどんどん仕事を任せていきたいのです。クラウドは私が会社にあまり来なくてもよい環境も作ってくれましたね（笑）」（田口社長）

○複雑な生産販売管理を PCA ソフトのみで運用

化学工業薬品の販売、金属の表面処理、装置設備の設計や施工など同社が取り扱う業務の内容はじつに幅広い。見積書を例にすると同社の生産販売管理の複雑さがよくわかる。

「例えば A という薬品と B という薬品をそれぞれ別の会社から仕入れ、C の処理を加え D の製品として販売します。取引先企業や各営業所によって見積書の体裁も変わります。そのため見積書は現場の営業担当者がそれぞれに使いやすいように作っており統一はしていませんが、『商魂』『商管』『会計』の連携は非常に便利です。見積を入力→売上データに反映→納品書発行→会計仕訳データ作成と、一連の流れで処理できますからね」(田口専務)

これだけ複雑な販売の仕組みを持つ同社だが、生産管理系の別ソフトを導入することではなく、現在は PCA ソフトだけで管理・運用できている。カスタマイズへの柔軟性は PCA ソフトの大きな特徴だが、『8V.2』バージョンのときに行っていたカスタマイズは、『9V.2

R7』にバージョンアップしてからは特に必要なく運用できている。

「当社は取り扱っている商品の数が非常に多いです。そのため『商魂 8V.2』『商管 8V.2』では得意先別単価マスターに主仕入先コードを追加してもらい、仕入単価も得意先別単価マスターに加え、得意先ごとの仕入単価と売上単価を管理できるようカスタマイズしてもらっていました。しかし『PCA 商魂 9V.2R7』『PCA 商管 9V.2R7』にバージョンアップ後は、そのカスタマイズも不要です。売上データの入力画面に前回単価が自動的に表示されるので、それを参照しながら入力できます」(田村氏)

「当社の販売管理に 100%合わせられるソフトとなると、やはりオーダーメイドになるでしょう。しかしコストがかかります。現在、PCA の汎用ソフトでも対応ができていますので、今後も現状通り運用できると考えています」(田口社長)

なお同社ではあえて現在『9V.2R7』バ



株式会社 鍍研
専務取締役 海外事業部長
田口 利一 氏

システム概況図



クラウドによって合計 12 台から同時接続が可能

生産系の販売管理ソフトを導入しなくても、PCA ソフトで業務をカバー

埼玉本社





【表面処理薬品／工業薬品の販売】

表面処理用薬品、研磨材料、非鉄金属をご提供しています。工業薬品についても、豊富なラインナップから、お客様のニーズに合う薬品を迅速に提供します。

機器についても、整流器、濾過機、実験機、計測器など、表面処理に必要な附帯機器を選定、提供しております。

【設備設計／施工／メンテナンス】

会社設立以来、50年の間に培った知識と経験で、お客様に最適の設備を設計、施工いたします。

施工後はメンテナンスのエキスパートが対応いたします。安心してお任せください。



株式会社 鍍研 HP
<http://www.token-j.sakura.ne.jp/>

ージョンのソフトで使用している。『PCA クラウド』は最新ソフトに無償でバージョンアップでき、そのタイミングも選ぶことができるため、それぞれの企業の状況に応じた利用方法が可能であるためだ。

○「社員にかかる負荷の軽減」 ＝「経営リスクの軽減」

今回、同社がクラウドを導入した理由には、「社員1人にかかる負荷を軽減すること」＝「リスク回避にも繋がる」という考えもあったそうだ。サーバーを設置する場合、サーバーを管理する者が必要になる。中小企業の多くは、サーバー管理を担当するのは1人あるいは2人と少人数のケースが多い。その担当者が管理できなくなった場合、業務に支障が出る。

「当社は従業員教育に力を入れており、社員一人ひとりが皆優秀でよく働いてくれます。IT環境についても、総務田村は非常に知識が豊富で安心して任せております。しかし社員1名だけに任せている状態は、リスクも大きいと考えました。そこでサーバーを置かないクラウド形式なら、サーバー故障で通信が途切れることもありませんし、バックアップやメンテナンスの不安も解消できます」(田口社長)

田口社長は当初クラウド導入を提案されたとき、情報漏洩やバックアップについて調査をした。メーカーには何度も問い合わせで不安を解消。また、災害などの予期せぬ事態が発生した場合

も考慮し、クラウドならBCPの観点からも、リスクが軽減できると判断。結論としてクラウドの方がより安心だという結論に至ったそうだ。

各営業所では、以前のDBサーバー使用時に比べ、クラウド導入後の方がアクセススピードは速くなっており処理時間は向上。セキュリティソフト導入によってスピードに重さを感じることもなく、安定してクラウドを利用している。

今後の課題と展望

○半世紀の歴史を土台に、新規事業にも意欲的にチャレンジ

リスク軽減という視点からもクラウドを選んだ同社では、今後同社オリジナルの操作マニュアルを作成し、慣れない社員でもスムーズにソフトを扱えるよう情報を共有していきたいと語る。海外事業への進出も予定しており、半世紀の歴史を持ちながらも、次々と新しい事業にチャレンジしていく風土も持つ企業だ。

「社名のごとく、当社は金属の表面処理を最初から最後まで一貫して行える、国内では数少ない企業です。お客様に好かれる企業であることを大切にしてきました。今後も新しい技術を取り入れ、産業廃棄物の環境問題にも前面から取り組んでいきます」(田口社長)



災害時でも業務の継続が可能な
クラウドサービスで、
国内外の顧客からの信用を堅守

マイクロ・テック株式会社

スマートフォンや各種電子部品において、その存在感がますます高まっているスクリーン印刷。マイクロ・テック株式会社はその根幹を支えるスクリーン印刷機を中心に、高精度の印刷機を製造している。その名は海外でも知られ、取引先には日本を代表するメーカーが並ぶ。そんな先進の企業が導入したのが、PCA のクラウドサービスだ。災害時の対応も想定して導入されたクラウドの利用法を伺った。

導入システム

- ・ PCA 商魂 9V.2R7 for SaaS (12CAL)
- ・ PCA 会計 9 システム B
- ・ PCA 商管 9V.2R7 for SaaS (12CAL)

導入の狙い

- ・ 接続環境の改善とシステムメンテナンスの負荷を軽減したい。
- ・ 多彩なフォーマットの見積書を本社以外でも作成したい。
- ・ サーバーの老朽化による処理スピード低下が問題。
- ・ 災害時でも業務を継続できる環境を整えたい。

導入効果

- ・ 『PCA クラウド』を利用することで接続環境の改善、メンテナンスの負荷も軽減。
- ・ クラウドによって出張先のホテルでも見積書作成が可能。
- ・ クラウドならサーバーが不要なため、処理スピードはサーバーの影響を受けない。
- ・ クラウドなら災害によるサーバーダウンがないため、他地域の工場での業務を継続できる。

プロフィール

マイクロ・テック株式会社

□所在地：

本社 〒279-0012 千葉県浦安市入船 1-5-2NBF 新浦安タワー 13F
浦安工場 〒279-0025 千葉県浦安市鉄鋼通り 1-2-7
浦佐工場 〒949-7226 新潟県南魚沼市山崎新田 1000-6
長岡工場 〒940-2147 新潟県長岡市新陽 2-1

□従業員数：100 名

□設立：1989 年 7 月 20 日

□資本金：6,900 万円

□生産品目：生産品目 スクリーン印刷機及び製造設備

□企業 URL：http://www.e-microtec.co.jp/

【経営ビジョン】

マイクロ・テック株式会社はエレクトロニクス業界における、スクリーン印刷業界のバイオニアとして日本から世界へと発信し、エレクトロニクス業界の発展に貢献し、スクリーン印刷業界で独自の地位を築く。

弊社は創設 1989 年以來、『世界一の技術を持った会社をつくらう！』をモットーにスクリーン印刷技術の向上に注力して参りました。おかげさまで今や日本のスクリーン印刷技術は世界をリードしており、エレクトロニクスの発展には欠かせないプロセスです。

また今日の弊社のスクリーン印刷技術は、常にお客様と一緒に 難題に取り組み乗り越え続けた結晶と認識しております。私達は日本だけに留まらず、この技術が必ず世界に貢献できると確信しております。

「日本発、世界へ！」

エレクトロニクス産業発展に貢献して参ります。



マイクロ・テック株式会社
営業技術部 主任
辻 美保 氏

※ 2012年 10月に、『PCA for SaaS』
から『PCAクラウド』へ名称を変更
いたしました。



本社にて撮影

導入前の運用と課題

○サーバーの入れ替えと震災がきっかけに

マイクロ・テック株式会社は千葉県浦安市の本社以外に、同市内に 1 工場そして新潟県内に 2 工場を有している。クラウド導入前、DB サーバーとターミナルサーバーは浦安市の本社に設置し、新潟県内の工場とは通信を利用して業務を行っていたが、サーバー自体がトラブルを抱えるようになった。

「2010 年本社移転後、サーバールームからサーバーの大きな音が廊下まで響きわたるようになってしまいました。何とかしなければと思っていた矢先に、3.11 の地震が来てしまい、もうこれはサーバーを買い換えるしかないのかと一時期は考えました。しかし初期費用がかかります。弊社では Windows®がバージョンアップするたびにサーバーもバージョンアップしてきましたが、今後もその繰り返しかと考えるとやはりコストが気になりました。そこでクラウドを検討しはじめ、2011 年 6 月にクラウドを導入しました。ある程度の準備期間は必要だったものの、クラウドへの切り替えは数日で終了し、業務を止めることなくスムーズに移行できました。このスムーズな移行には PCA の担当者がとても頑張ってくださったと感謝しています」(営業技術部 主任 辻美保氏)

導入後の効果

○クラウドによって通信の体感速度も改善

同社と PCA との付き合いは長く、システム全般を管理している辻氏が、入社する以前に導入されていた PCA のソフトを、自力で立ち上げて使用してきた。クラウドの導入を検討するにあたり、当然他社のクラウドサービスとも比較検討したそうだが、今まで PCA ソフトで蓄積してきたデータを活かし続けたいという思いが強かったという。

「正直、他社への移行も視野に入っていたのですが、今までの販売管理のデータは弊社にとって大切な財産です。そのデータをどうしても残したかったのです。現在も『PCA 商魂 9 V.2R7 for SaaS※』『PCA 商管 9 V.2R7 for SaaS※』のソフトの中には、歴代の『PCA 商魂・商管』で使用してきた重要なデータが、13 年分入っています」

十数年前からの膨大なデータがシステムに入っている以上、やはり気になるのは入力時の処理スピードだ。加えてクラウドを利用することになり、通信速度や入力の処理スピードについては、導入当初には不安があったという。

「結論からいうと、通信速度や入力の処理スピードについてはまったく不満はありません。とてもスムーズで速いですし、ストレスフリーに使わせてもらっています。2000

年からのデータが入ってますが、操作が重くなったという印象もあります。以前サーバーを使っていたときにつくづく感じたのは、私どもが業務で感じる体感速度＝サーバーの速度なんです。サーバーが新しいければ、通信速度や処理スピードも速く感じられますが、時間が経つごとにサーバーは古くなり、またそこで速度の問題が出てきます。クラウドによってその問題点はある程度解決しました」

クラウド導入によって、営業担当者は見積書を容易に作れることになったのも便利だと語る。

「現在クラウドを利用し見積書を作成しています。弊社の営業担当者は日本全国への移動だけでなく海外出張も頻繁ですが、今までは基本的に見積書は本社で作っていました。しかしクラウドがあれば工場や滞在先のホテルなどで作成でき、営業担当者は“場所を選ばずに仕事ができるようになったこと”が便

利だといっています。弊社の場合は伝票の種類も多く、お客様によって専用伝票を使うこともしばしばで、このような伝票管理についてもクラウドを使い、情報を共有することで整理しやすいです」

○災害時でも業務を継続できるシステム環境に

同社がクラウドを導入するきっかけになったのは、通信速度の改善やサーバーの入れ替えだけではない。災害時の対応も考えてのことだった。

「本社がある浦安市は震度 5 といえ、かなり揺れました。サーバーも線が切断してしまうほどの被害を受け、使うことができませんでした。しかし同時刻に新潟の工場は操業に問題なかったわけです。本社が被害を受けることで新潟の工場の操業にまで影響が出るのは問題だと考えました。なお震災時はメンテナンスの方の対応も非常に早くで

製品情報

【スクリーン印刷機 MT-650シリーズ】

マイクロ・テックは、長年のスクリーン印刷の追求から、スキージでの印刷位置直前のスクリーン両端部を補助スキージ（プレコンタクトスキージ（PAT.P）＜オプション＞）で押さえることにより、スクリーンと基板を帯状の接触状態にし、にじみを大幅に軽減できることを確認しました。

MT-650シリーズの低圧スクリーン印刷機は、このプレコンタクト印刷を容易に行えるようにしました。MT-650シリーズは、スキージホルダー部のアタッチメントの交換でダブルスキージ仕様のプレコンタクト印刷も可能になりソルダペーストを滲みなく連続で印刷することもできます。

<写真> MT-650TVC



【スクリーン印刷機 MT-320シリーズ】

MT-320シリーズは、新しい設計思想に基づき開発した小型多目的の低圧スクリーン印刷機です。剛性の高い鋳物製ヘッドにガイドシャフトを4本立て、印刷フレーム部をバランス良く支える構造で従来の離着構造をなくしテーブルはスロープレール走行となっています。

スキージヘッド部は、上向き回転方式（PAT.P）を採用し、スキージ、スクレップ、版などの脱着清掃などの作業が大幅に向上し、コンパクトで高い操作性を実現しました。

発注時の指定により版枠380×380mm取り付け用改造、及びテーブル300×300mmへの改造も可能となっており、印刷エリアを広げることが可能です。

<写真> MT-320TVC（オートアライメントタイプ）



システム概況図

クラウド導入後の通信速度は問題なし。
サーバー使用時よりもむしろスピーディーな体感速度。



BCP(災害時事業継続計画)

■クラウド導入前
バックアップデータを新潟の工場に保管。しかしストレージが増えコスト増。

■クラウド導入後
大事なデータを本社以外でも確実に保管できる。ローカル運用ができるためクラウドへ万が一の事態が起こった場合も安心。データのバックアップは継続。



マイクロ・テック株式会社 HP
<http://www.e-microtec.co.jp/>

1 日で復旧できました。しかしすぐに復旧したとはいえ、今までの災害時の事業計画を見直す必要があると実感したのです」

それまで同社では災害時の対策として本社のサーバーのデータを保存。そのバックアップデータを新潟の工場に送るといった対策をとっていたそうだ。「現実的にできる対策としては、そのような方法しか実行できませんでした。しかし徐々にストレージも増えてきて、その対策法にもコストがかかるようになりました。そもそも私がクラウドの知識を得たのも、データを他にも移さなければならないという危機感からでした。災害によって業務が止まったら、国内外のお客様に迷惑をかけてしまうわけですからね。その点は今回クラウドを導入したことで、ある程度リスクの軽減はできたと考えています」

今後の課題と展望

○先進技術を支えるためにもさらなる改善を

PCA に対する製造業ならではの要望もあるそうだ。『PCA 商魂』『PCA 商管』はとてもよくできたソフトだと思います。ただし弊社のような製造業の場合、少々やりにくい面があ

り、原価を簡単に出したいときなどに苦労しますね。なので製造系に強い他社のソフトと連携させて使っているのが現状です。販売管理という面では非常に使いやすいソフトなのでしょうが、製造系にも使いやすいように、さらなる工夫を期待しています。なおクラウド自体には非常に満足しており、点数を付けるとしたら 80 点です。ただしクラウドになってから検索機能について、以前よりも不便になったように感じます。この部分を改善していただけると 100 点満点なのですが」

年々スマートフォンが普及し、タッチパネルを搭載した Windows® 8 が登場し、同社の手掛ける高性能のスクリーン印刷機は、今後もますます需要が期待されている。同社では今後も様々な分野でスクリーン印刷を広めていくそうだ。

「弊社では今後もいろんな分野でスクリーン印刷の可能性を探っていきたくて、その可能性をどうやって広めていくかを日々考えています。なにぶん先進の分野ですから機密保持や守秘義務の遵守などにも十二分に注意・配慮しながら、クラウドの力も利用しつつ、今後も万全なシステム環境を構築していきたいです」



録っておきは、ビクター。

信頼の
日本品質

SaaS でシンプル運用、
導入コストの大幅カットに成功

ビクターアドバンストメディア 株式会社

この度 2009 年 7 月、ビクターアドバンストメディア 株式会社(東京都中央区)で、『PCA 会計 for SaaS』が本格稼働した。ビクターアドバンストメディア(株)はビクター記録メディア製品の開発・生産・販売を行う会社でブルーレイディスクや DVD などの光ディスクおよび DVC、VHS などで有名であり、優れた品質と高い信頼性で国内シェアも高い。今回の同社の狙いはコスト削減と業務フローの見直しであった。今回の導入の経緯や変化について経営管理室の河野氏にお話を伺った。

導入システム

・ PCA 会計 for SaaS (6CAL)

導入の狙い

- ・ 導入コスト、ランニングコスト削減
- ・ 短期導入
- ・ 周辺システムとの連携をスムーズに行いたい

導入効果

- ・ コスト削減
- ・ 短期導入
- ・ 他システムからスムーズな連携が可能になった

プロフィール

ビクターアドバンストメディア株式会社

- 所在地：東京都中央区銀座6丁目13番16号 銀座ウォールビル12F
- 従業員数：約 140 人
- 設立年月日：2008 年 7 月
- 事業内容：ビクター・JVC ブランドの記録メディア（テープ、光ディスク）の開発・製造・販売および関連事業
- 企業 URL：<http://victor-media.co.jp/>

ビクターアドバンストメディア(株)はビクター記録メディア製品の開発・生産・販売を行う会社でブルーレイディスクや DVD などの光ディスクおよび DVC、VHS などのビデオテープをお届けしています。優れた品質と高い信頼性を生み出す先進技術や人材、ものづくりノウハウで高品質の製品をご提供するとともに、思い出や大切な映像を記録する“楽しみ”や“価値”をご提案しています。

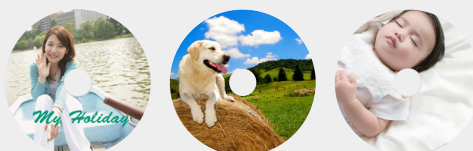
ビクターのブルーレイディスク



1 回録画用 BD-R ディスク

くり返し録画用 BD-RE ディスク

思い出や大切な映像を “楽しく” 保存！



ディスクレーベル面へのプリント例



ビクターアドバンストメディア株式会社 HP



ビクターアドバンスメディア株式会社
経営管理室
河野 純 氏



社内の商品ディスプレイ

導入の経緯

ビクターアドバンスメディア株式会社は2008年7月に日本ビクター株式会社から分社化。記録メディア事業を主体とする新会社として設立された。同社における海外の販売拠点はアメリカ、ドイツ、中国と3か所あり輸出業務までを行っている。設立当時は、CD-RやDVD-R、BD-Rなどの記録メディアの研究、開発、生産を専門とする企業と提携し事業再編、構造改革が推進されていた。

これにより、独自の業務環境の構築が急務となった。これまで使用していた統合会計システムではオーバースペックであった為、コスト面でも膨大にかかることから現行の業務スペックに合わせたシステム導入が必要だった。

導入ポイント

『PCA 会計 for SaaS』を選定した理由はいくつかある。環境面では自社サーバー不要で導入できるものであったということ。これは初期費用やメンテナンスコストが大幅に削減できる。そしてネットワーク経由でリアルタイムにアクセスすることも必須であった。他にも販売パートナー様の一貫したサービスが決め手になった。「このまま以前のシステムを使用していたら、月額コストはおおよそ80万円前後にはなっていただろう…」と経営管理室の河野氏は語る。

コスト削減と短期導入

また河野氏は続けた。「今回の導入の最大のメリットは何といってもコストの面です。以前と比べて、おおよそ12分の1に縮小できました。もう一つ、今回の導入で満足していることは会計的な業務品質をおとすことなく適切な処理を行うことができたということです。元々、水戸(茨城)にあった経理機能を本社の銀座へ移すことも同時進行で行わなければならず、仕訳件数も月平均7,000件程度にもなりますので不安でした。水戸で稼働させる

ことから始めましたが、最後まで無事滞りなく移行できたのはSaaSだったからこそですね。導入時からセキュアな環境であることや回線速度も十分なことが解かったので安心できました。」とSaaSの最大のメリットも実感いただけている。

また、既存の販売管理システム側では連携用の仕訳データが簡単に作成できるため操作も簡単だ。レイアウトも自動で変換されるようになっている。現在では周辺システムからは膨大なデータが取り込まれ、『PCA 会計 for SaaS』が受け皿となっている。現在も容量や速度の問題もなく安定しているそうだ。サーバーが外部にあっても、バックアップをユーザー側でいつでも簡単に扱えるということも安心して使っていただける所以であろう。

稼働までのスケジュールは選定に1週間、購入から2週間で導入、セットアップ、操作講習と極めて短時間での稼働スケジュールであった。ユーザーインターフェースも解り易く、時間短縮に貢献できたようである。

短期導入の成功の要因はもちろんそれだけではない。システムを動かすのはやはり人間である。「経理知識とシステムへの対応力があるスタッフにも恵まれ、なんとかスケジュール内で間に合ったことも幸いでした。」とおっしゃっているが、河野氏の導入に向けた強い意志がスタッフに伝達した結果である。

今後の課題

最後に今後の目標、課題を河野氏にお聞きした。

「導入から2年近く経過していますが、周辺システムの切り替えもほぼ完了し、当社独自の自立したシステムが構築されています。今後はできるだけシンプルで解り易いものとして効率化を推進し、事業展開をサポートしながらさらなる利益体質向上を目指していきたいと考えています。」と将来への力強いビジョンを語っていただいた。



販売管理・仕入管理・会計の
スムーズな連携で業務効率の向上に成功
世界的トップメーカーに学ぶ
連携成功のための情報収集力と計画性

株式会社 ルミカ

化学発光体の製造販売において、世界のトップメーカーの位置を安定して守り続けている株式会社
ルミカ。釣り具の『ケミホタル』やコンサートでよく使う『ルミカライト』など、同社の製品を愛用して
いる人は多いだろう。全国各地に支店や事業所を持ち、約 5000 種類にも上る商品を取り扱う同社で
は、PCA ソフトが非常に巧みに連携され使用されている。そのソフト連携への取り組みは、ぜひ手本
にしたい内容だ。企業理念である『発見と創造』が、見事に反映されたシステム環境について伺った。

導入システム

- ・ PCA 商魂 X with SQL (20CAL)
- ・ PCA 商管 X with SQL (20CAL)
- ・ PCA 会計 X with SQL (15CAL)
- ・ PCA 給与 X EasyNetwork

導入の狙い

- ・ 部門ごとの売上や損益を把握するための帳票作成に時間がかかる。
- ・ 販売管理や在庫管理、会計の入力業務をミスなく適切に行いたい。
- ・ 職種や担当者ごとにアクセスの権限を設定したい。

導入効果

- ・ 『PCA 商魂』をネットワーク化して利用することで、リアルタイムで売上や損益を把握。
- ・ 『PCA 商魂』『PCA 商管』『PCA 会計』を連携させ、データを自動反映。
- ・ 99 パターンの権限設定が可能。

プロフィール

株式会社 ルミカ

- 本社研究所 : 〒811-3136 福岡県古賀市糸ヶ浦 65
- 支店・事業所 : 東京支店、大阪支店、北九州事業所、茨城工場、スペイン支社
- 設立 : 1979 年 2 月 10 日
- 資本金 : 100,000,000 円
- 従業員 : 186 名
- 業務内容 : 釣り具製品の企画・製造・販売
パーティーグッズの企画・製造・販売
コンサートグッズの企画・製造・販売
販促商材の企画・製造・販売
玩具および雑貨の企画・製造・販売
化学品検出器、感染管理商品の製造
生活関連製品の製造・販売
- URL : <http://www.lumica.co.jp/>



本社外観

【企業理念】発見と創造

1979 年の創業から一貫してオリジナル商品の開発に力を注ぎ、ユーザーの皆様からご支持をいただいております。

主力事業である化学発光分野では、世界のトップメーカーとして常に業界標準を生み出しています。また、中国における自社工場生産により世界屈指の価格競争力と品質力を維持し続けています。

「守成と新創業」をキーワードとした中期経営ビジョンに基づき、飛躍的成長を目指した事業展開を行ってまいります。

導入前の運用と課題

○部門ごとの売上や損益をリアルタイムで見たい

1979年の創業以来、一貫して化学発光体のオリジナル商品の開発・販売に力を注いできた株式会社ルミカ。世界のトップシェアを維持し続ける同社だが、商社というよりも「モノづくりの会社」の方がより正確な言い方だと同社管理本部 セグメントリーダーの野見山淳氏は語る。そのモノづくりの姿勢はシステム環境にも表れており、使用ソフトの選定についても、業者任せでなく社員たちの声を反映させている。

同社が PCA 製品を導入したのは 10 年以上前。営業部からの「リアルタイムで数字を見たい」という声がきっかけだった。

「当時は現在ほどインターネット環境が整っておらず、他社のソフトを用いて、アナログ回線でデータを集約し処理していました。しかし部門ごとの売上や損益のデータを営業が求めるスピードで出すことは難しく、そのためまずは販売管理のソフトから検討を始めました。その結果、入力画面のわかりやすさなどから『PCA 商魂 7』がもっとも使いやすいと判断し導入しました」（野見山氏）

野見山氏が中心となり、ネットワーク化のためのインターネット VPN も開設。サーバーを福岡本社に置き、各支店や各事業所を結んで『PCA 商魂 7』の使用を開始した。その後『PCA 商管 7』を導入し、野見山氏自身も同ソフトの仕入管理の便利さを実感したそう。そして『PCA 商魂 8V.2』、『PCA 商管 8V.2』へのバージョンアップをきっか

けに『PCA 会計 8V.2』も導入。現在は、『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』『PCA 会計 X』、さらに『PCA 給与 X』も採用している。

導入後のメリット

○ソフト連携の秘訣は、事前の情報収集と計画性

上記のように PCA ソフトを多数採用している同社だが、とりわけ『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』『PCA 会計 X』については、連携の機能を上手に活用している。

「『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』での売上・仕入データは、商魂・商管で仕訳データの作成を行うと、『PCA 会計 X』へ自動反映されます。当社の場合、月次で締めた売上データや仕入データは一括して連動で会計に自動反映させており、念のため会計データの確認も行っていますが、特に問題はありません」（管理本部システム担当 沖田絵里氏）

同社の場合、スムーズな連携を成功させた背景として、システム担当者の知識や理解の深さも大きい。それ以上に「計画性」が重要だと野見山氏は語る。

「いずれのシステム導入についてもいえることですが、最初の情報収集と計画が大事だと思います。実は当社は 2 年前に原料メーカーと合併したのですが、その会社も『PCA 商魂』『PCA 商管』を導入していました。ところが連携はさせていませんでした。そこでバラバラになっていたコードを取りまとめ、当社のコード体系に合った内容に修正して、期日を決めて、一気に合流させました」（野見山氏）



株式会社 ルミカ
管理本部 セグメントリーダー
野見山 淳 氏



株式会社 ルミカ
管理本部 システム担当
沖田 絵里 氏

商魂・商管・会計の連携については、部門管理が非常に細かいことが要因で連携させていない企業も多いだろう。しかし部門管理の複雑さについては同社も同様だ。

「確かにその点は苦勞している部分です。当社は部門の編入・合併が頻繁で、そのたびに会計のコードを変えなくてはなりません。しかし逆の言い方をすれば、そこさえしっかり固めておけばよいのです。連携を成功させるアドバイスとしては【①. 最初から連携ありきで計画を立てる】【②.PCA のセミナーなどでトレーニングを受け、専門家の意見に耳を傾ける】ことです」(野見山氏)

○閲覧・出力・修正・承認などの権限設定は 99 パターンまで可能

『PCA X シリーズ』は細かく権限設定できる点も好評だ。職種や担当者ごとに、参照できても入力できない科目や部門の設定だけでなく、仕訳の修正・削除、承認、出力などについても細かく権限を設定できる。

また、「仕入を検証する者が受注を取ることは、権限の集中を招くため当社では行っていません。受注する者・出荷する者・マスターを触ることができる者と細かく権限を設定し、適切な権限設定のために、それぞれの担当者に現場の状況もヒアリングしています。以前のバージョンでは 9 パターンまでしか権限設定できませんでしたが、現在のバージョンでは 99 パターンまで設定でき重宝しています」(野見山氏)

○PCA ソフトは人にやさしいインターフェイス

多くの PCA ソフトを使い、連携も成功させている同社だが、PCA ソフト全般に対する印象として「わかりやすさ」と「手間がかからない」点が魅力だと沖田氏は語る。

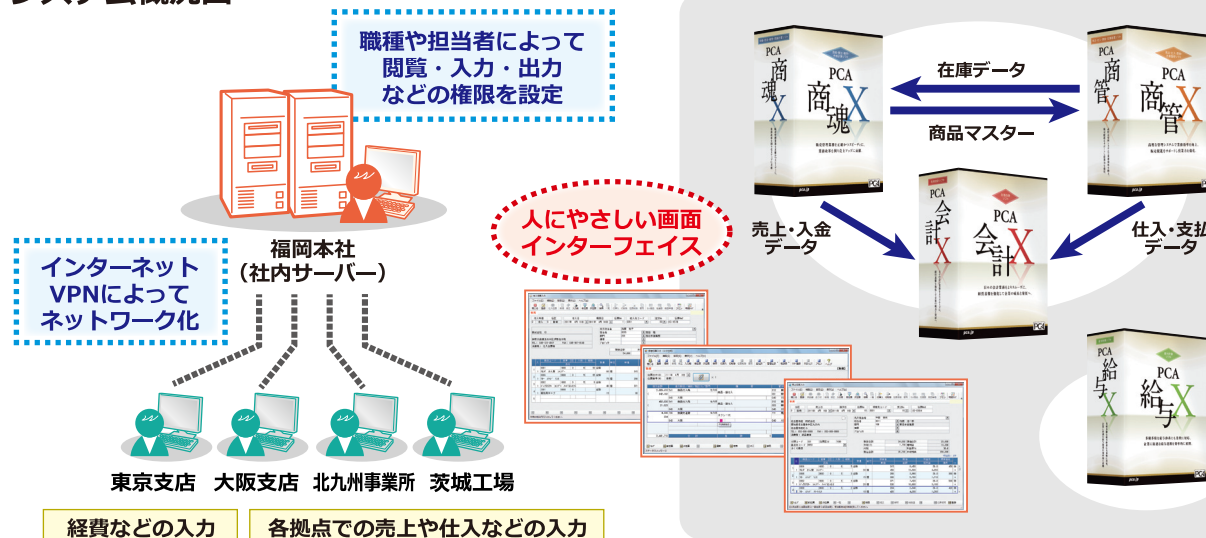
「現在、バックアップの所要時間は 15 分程度で済んでおり、特に手間のかかるメンテナンスなどは一切必要なく、何の支障もなく快適に利用しています」(沖田氏)

野見山氏も同様の意見で、「プロが要



本社の商品ディスプレイ

システム概況図





【主要製品】

□化学発光体

ケミホタル・ぎょぎょライト・
ルミカライト・演出用化学発光液等

□物理発光体

ケミブライト(蓄光材等)

□電池製品

デンケミ・LED 玩具等

□ガラスアンプル製品

試薬キット等

□生活関連製品

芳香剤、スキンケア製品等



株式会社 ルミカ HP
<http://www.lumica.co.jp/>

らないシステム」「仕事のやる気を起こさせる画面」だと評価は高い。

「PCA ソフトは画面のインターフェイスが人にやさしいです。実は少しだけ他社のソフトを使った期間があったのですが、入力画面を見た時に、ちょっとこれは扱いにくいなあ……と思いました。一度そのような印象を持つと引きずるのが人間の心理です。一方で PCA の入力画面は絵画そのものがかったとよく、仕事のやる気が出ます。これは多くの社員が感じている印象ですよ」(野見山氏)

他にも、PCA ソフトのメリットとして経営分析ツールが豊富にそろっている点が挙げられている。『PCA 会計 X』には予算実績比較表などがあり、『PCA 商魂 X』には売上順位表、当年や前年の売上実績を表示した月次実績の照会などが簡単にし出し、営業担当者一人でも容易に作成・出力できる。ソフト操作の経験やシステムの知識に豊富なプロでなくても、十分に使えるのが PCA ソフトの特徴だ。

今後の課題と展望

○『発見と創造』の土壌となる、よりよいシステム環境の構築に注力

ロングセラー商品を抱えた世界的メーカーであり、商品は 5000 種類以上、取引先企業は 3000 社以上に上る同社だが、汎用性に重点を置いて作られた PCA ソフトの使用に不便はないのかを

率直に伺った。

「現在の当社の規模では、特別な自社専用システムはまだ必要ないと考えています。しかし今以上に規模が拡大した場合は、PCA の『Dream21』のような統合型業務パッケージの方が便利なのかもしれません。この点は常に意識しており、自社専用システムか、統合型業務パッケージへの移行か、あるいは現状の PCA ソフトを今後も使い続けていくかは、今後の検討材料の 1 つです」(野見山氏)

同社では通販サイトも人気で、その通販サイトにおける在庫と同社の事業所が抱える在庫の整合性。また現在は独自で使用している『PCA 給与 X』を、さらに活用できる方法の模索など、今後もシステム環境には工夫を巡らせていきたいそうだ。企業理念である『発見と創造』と、『モノづくり』への姿勢によって培われた「何でも自分たちでやる」という土壌は、システム環境にも大いに活かされている。



クラウドAPI

クラウドAPIによって
給与・人事の基幹システムと
『PCA給与X』『PCA人事管理X』とを連携。
事業発展の基になった「内製化」を
支えられる人事管理システム

松阪興産株式会社

昭和29年に土木・建設資材事業から始まった松阪興産。現在、主軸の建設資材・骨材事業を中心に、住宅建設、システム開発、さらに農業とさまざまな領域で事業を行っている。グループ全体で約500名の従業員を擁する企業へ成長した同社が、給与・人事管理ソフトとして選んだのが『PCA給与X』『PCA人事管理X』だ。「自社でできることは自社内で」という内製化の方針から、人事管理にはとりわけ力を入れている同社。PCAソフトが同社の内製化に、どう活かされようとしているのかを伺った。

導入システム

- ・ PCA 給与 X for SQL 3CAL
- ・ PCA 人事管理 X for SQL 3CAL
- ・ PCA クラウド API ※1

※ 1):『PCAクラウドAPI』により開発した、カスタマイズプログラムが利用できるサービスです。『PCAクラウド』のみならず、パッケージ版にもご利用いただけます。

導入の狙い

- ・以前の給与・人事管理ソフトのサポートが切れ保守料もアップ。コストを抑えた人事管理システムが欲しい。
- ・様々な業種に展開しているため給与・人事管理も複雑。これらを解決できる人事管理システムにしたい。

導入効果

- ・『PCA給与X』『PCA人事管理X』なら「支給・控除項目」の多さという条件にもマッチし、以前のソフトよりコストを抑えて導入が可能。
- ・クラウドAPIを利用することで、同社の給与・人事の基幹システムと連携させたカスタマイズが可能。複雑な給与・人事管理にも対応できる。

プロフィール

松阪興産株式会社

- 本社所在地:〒515-0005 三重県松阪市鎌田町253番地5 中川ビル3F
- 設立年月日:昭和29年2月2日
- 資本金:1億円
- 社員数:445名
- 主業種:建設資材製造販売
- 事業種目:砂、砂利、砕石製造販売／コンクリート二次製品製造販売／アスファルト合材製造販売／生コンクリート製造販売／土木工一式／測量業／宅地建物取引業／建築工事の設計及び施工／廃棄収集処理、リサイクル／住宅事業／コンピュータ事業(ソフト設計・開発・販売等)／育苗培土製造販売／損害保険代理店業務／労働者派遣事業／試験及び検査業務／農産物の生産、加工及び販売／鉄筋溶接金網製造、加工、販売／第一種貨物利用運送事業／電気工事業／上記に付帯する一切の業務
- URL:<http://www.matsusaka-kosan.co.jp>

□会社概要:

弊社は創業以来、常に地域社会のみならず『貢献』『信頼』に応えるべく『技術力』の向上に努めてまいりました。

近年のますます高度で多角的に進んでいく変革の時代に挑戦するため、斬新な発想と大胆な行動力をもって、日々奮闘努力しております。

また、現在ご愛顧いただいております商品群につきましても、更なる充実と、品質の技術水準向上に努め、社員一同限りない前進を続けてまいります。

みなさまのより一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



松阪興産株式会社
システム事業部 マナックシステムズ
事業部長
横山 伸明 氏



松阪興産株式会社
管理部 総務課 係長
谷口 智哉 氏

※2:【取材後記】

2014年12月分の賞与取込(会計ソフトへ)も無事に終了し、2015年1月より本稼働している。

2015年6月には給与データの会計システム連動も完了し、順調に連携範囲の拡張が進んでいる。

導入前の運用と課題

○給与体系の見直しとともに、給与・人事管理ソフトも一新

建設資材・骨材事業から、住宅建設、システム開発、育苗培土農業など、多彩な事業領域を持つ松阪興産株式会社。事業所は三重県・愛知県を中心に北は宮城県、西は兵庫県まで広域に展開している。事業の拡大とともに従業員の数も増え、現在はグループ全体で約500名を擁する規模にまで成長している。

順調に事業を伸ばす松阪興産では、これまで他社ソフトウェアメーカーの給与・人事管理ソフトを導入していたが、それらをPCAソフトへ切り替えたのには次のような理由があった。

「まず1つめの理由は、以前契約していたソフトウェアメーカーの保守料が上がり、年間のコストが一気に高くなることがわかりました。またサポートも切れてしまうと。そして2つめの理由は、昭和29年に設立した当社が62期を迎えることになり、給与体系を再度見直して、従業員が働きやすい環境を整えるプロジェクトを立ち上げたのです。そこで給与・人事管理ソフトも思い切って切り替えようと考えました」(システム事業部 マナックシステムズ 事業部長 横山伸明氏)

選定のポイント

○『PCA給与X』では支給・控除項目が大幅に増加

事業の領域が複数、しかもまったく異なるフィールドにまたがる同社では、当然、給与体系や給与計算、人事管理は複雑になる。そこで新しい給与・人事管理ソフトの条件として、①支給・控除項目が多いこと。②同社で作成した給与・人事管理の

基幹システムと連携させられるようカスタマイズができること。この2つは外せなかったという。

「他にも決め手となったポイントはあります。当社のお客様の中には、『PCA商魂』『PCA商管』をお使いの会社様も多く、販売管理ソフトの使いやすさは聞いていました。『PCA給与』の支給・控除項目の多さも、お客様から教えていただきました。また、当社はカスタマイズが必要な部分があるのですが、その点をPCAに相談したところ、営業の担当者が足繁く通って話を聞いてくれました。以前使用していたソフトウェアメーカーではこのような対応をとってもらえなかったので、PCAの担当者の熱心さも決め手でした」(横山氏)

導入後の効果

○PCAなら同社オリジナルの基幹システムとカスタマイズして運用可能

現在、松阪興産では『PCA給与X』『PCA人事管理X』の本稼働に向けて動いている最中だ。予定では2014年8月からの本稼働を目指していたが、以前のソフトからのデータ移行に時間がかかってしまい、また同社の複雑な給与・人事管理システムとの連携も必要だった。※2:【取材後記】

「建設資材、生コン工場、太陽光発電、ハードウェアのコンピュータからソフト開発、そして農業……。ここまで幅広い事業を行っている会社はあまり多くないと思います。加えて当社では、これらのまったく違う職種の従業員を、同じ等級で査定・評価しています。いつ職種が変更しても査定・評価しやすく、またいつ職種が増えても対応できるようにするためです。しかしこれが一般のパッケージソフトでは対応しきれない部分でした。そのためこ

れらを処理する当社オリジナルの給与・人事管理の基幹システムを連携させるカスタマイズが必要で、それに対応できたのがPCAでした」(横山氏)

松阪興産の給与システムを可能にするために用いられたのがクラウドAPIだった。なお、選定のポイントであった『PCA給与X』の支給・控除項目の多さは評判通りで、まったくカスタマイズすることなく利用できているようだ。『PCA給与X』では支給・控除項目を自由に設定できる。例えば勤怠時間・勤怠数値などの項目を設定でき、これらの自由に設定できる項目と計算式を併せて利用できる。最大で999件の給与体系を処理でき、それぞれの体系ごとに支給控除の設定ができる。そのため以前よりも柔軟な給与計算が可能だ。

○保険関連の帳票を簡単に出力。そのままスムーズに提出できる

『PCA給与X』のメリットとして、帳票類の便利さが評価されている。

「以前のシステムと比べて大きく変わったのが、社会保険の提出書類の作成を簡単にスピーディーにできることです。まだ本稼働にはいたっていないのですが、最初の印象として『なるほど、これは便利に使えるなあ』と感じました」(管理部 総務課 係長 谷口智哉氏)

『PCA給与X』の社会保険関連の帳票(月額変更届、算定基礎届)は、集計結果を実際の提出書類のフォーマットで出力できる。そのためスピーディーに提出しやすいが、現場で集計後の確認もしやすいメリットがある。新等級の反映はもちろん、保険料率や交通費非課税限度額などを期間ごとに管理・自動計算でき、標準報酬決定通知書のファイル出力も可能だ。

○シンプルなインターフェイスなので、使いたい機能にたどり着きやすい

『PCA給与X』『PCA人事管理X』のインターフェイスのよさも、今回のソフトの一新で印象的な点だという。

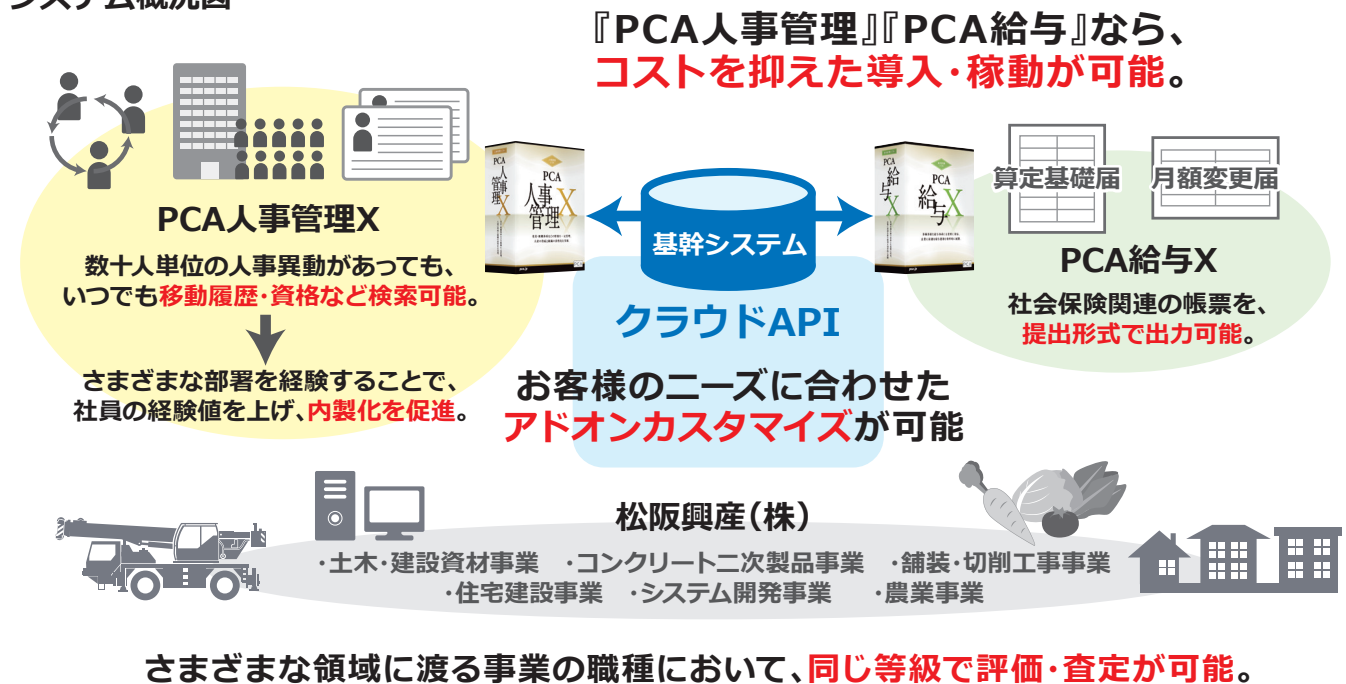


松阪興産株式会社
管理部 人事総務課係
篠木 朋美 氏



システム事業部入口

システム概況図





取材の様子

【PCAクラウドAPI】

パッケージ版でも、クラウド版でも、柔軟なカスタマイズが可能

『PCA Xシリーズ』の業務データを外部から利用するための『PCAクラウドAPI』を活用することで、モバイル端末や外部システム等をつなぐことが可能です。マスターやデータ連携がよりシームレスになり、更なる業務の効率化が実現できます。

パッケージ版・クラウド版の両方に使用できますので、移行をする際にも、カスタマイズ投資は無駄になりません。



松阪興産株式会社 HP

<http://www.matsusaka-kosan.co.jp>

「インターフェイスがわかりやすい、見やすい、簡素であるということは、実際に現場で入力する立場から見て、とても大切なことだと思います。今はまだ操作に慣れていないため、機能をあちこち探す状況が続いているのですが、以前のソフトは慣れていても機能やボタンを探すことがありました。しかしPCAは一度慣れた後は、探している機能へたどり着きやすいのではないかと感じています。多くの企業では分厚いマニュアルをじっくり読み込む時間はないのが実情だと思います。ですからインターフェイスがわかりやすく、簡単に使えることは、業務の効率化・迅速化において重要な意味を持つと思います」(谷口氏)

なお、次のようなご意見もいただいた。

「地方都市の中小企業での使用をもう少し具体的にイメージしてもらえると、より便利な仕様になるのではないのでしょうか。例えば地方はマイカー出勤が多く、手当も通勤距離で計算している企業が多いと思います。そこで通勤距離を社員データのどこかにメモ的に付けられる箇所があるといいですね。備考欄を使う方法もあるのでありますが、通勤距離という独立した項目が欲しい地方企業は多いと思います。また、計算式についてもあらかじめ設定されている数式がもっとあってもよいのと思います。地方に限らず中小企業にはローカルルールが多いため、これらを全て反映するのは難しいとは思いますが、割りと使われていそうな計算式がない点は気になりました」(谷口氏)

今後の展望

○「自社内でできることは自社内で行う」内製化の方針を支えられる給与・人事管理システムに

松阪興産が給与・人事管理に力を注いでいるのは、「自分たちでできることは自分たちです」という内製化の方針が大きく影響しているからだという。

「なるべく外注を減らして、自社内でお金を生み出す内製化を行うには、なんでもできる人材が必要になります。今後も社内を横断的に異動して、なんでもできる社員を育てていく必要があります。当社では数十人単位での人事異動が珍しくありません。『PCA給与X』『PCA人事X』を活用して、社員のライセンスや技術、過去の異動履歴などを簡単に検索・抽出できる機能をフル活用していきたいです。『PCA給与X』『PCA人事管理X』をいざ軌道に乗せたら、当社の内製化の方針にとっても合う利用ができると期待しています」(横山氏)

同社が幅広い事業領域を持っているのも、「まずは自分たちでやってみる」という内製化の考えから展開していったものだという。同社システム事業部 マナックシステムズでは看護師向けのスケジューリングソフトから骨材出荷用のソフトまで販売しており、とりわけ骨材出荷管理システムは自社内に建材・コンクリート事業を持つ同社ならではの品質が評価されている。「PCAの力も借りながら、当社の強みを生かし、今後もさらに事業を全国的に発展させていきたいと思います」(横山氏)

ピー・シー・エー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

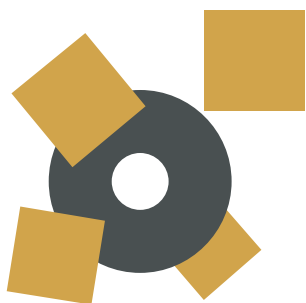
本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®はMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®はMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。



ohashi
ECOLOGICAL TECHNOLOGY

少数精鋭のグローバル企業を支える
PCA製品の柔軟性。
外部システムとのスムーズな連携で
より業務にフィットしたシステムを構築

株式会社 大橋

環境機器や農業機械の製造・販売を行っている株式会社大橋。佐賀県神埼市の静かな環境に本社を構えているが、市場をEU圏に広げている先進のグローバル企業だ。同社では以前からPCA製品が導入され、現在『PCA会計X』『PCA給与X』によって会計・給与の業務が行われている。現在『Salesforce Sales Cloud※1』と『PCA会計X』『PCA給与X』とを連携させたシステムを構築中で、いろいろと試している最中だという。同社が目指す効率化、そしてグローバル化を目指す企業を支援できるPCAのグローバルアライアンス「ALAE」についても紹介する。

導入システム

- ・ PCA 会計 X システム A
- ・ PCA 給与 X システム B

導入の狙い

- ・消費税変更についてスムーズに対応したい。
- ・日常の経理業務を円滑にしたい。
- ・事業の拡大に対応できるシステムを構築したい。

導入効果

- ・『PCA会計X』の万全な8%消費税対応によって、問題なく消費税変更ができた。
- ・「フセン機能」や「自動仕訳」でミスを軽減し、業務も省力化。
- ・PCA製品の柔軟なインターフェースによって、独自の経営管理資料をスムーズに作成。より業務にフィットしたシステムを実現できる。

プロフィール

株式会社 大橋

- 所在地: 〒842-0065 佐賀県神埼市千代田町崎村401
- 設立年月日: 昭和63年5月12日
- 資本金: 3,175万円
- 社員数: 32名
- 主業種: 製造業
- 業務内容: 環境機械・緑化機械および農業機械の設計、開発および製造、販売
- URL: <http://www.ohashi-inc.com/>

□会社ロゴマークについて:

株式会社 大橋の主力製品である“樹木粉碎機”によって生成されたチップをモチーフにしています。そのチップも一環を担う循環環境産業を、総合的にプロデュースできる会社を目指す姿勢を表しています。



本社外観

※1:『Salesforce Sales Cloud』は、(株)セールスフォース・ドットコム¹の製品です。世界シェアNo.1のオールインワンCRMソリューションです。



株式会社 大橋
取締役 企画室 管理部マネージャー
大橋 淑子 氏



株式会社 大橋
企画室 管理部
田川 大悟 氏

【株式会社大橋の特徴】

現在日本国内には、粉碎機・チップーシュレッダー業界における競合会社がいくつか存在しますが、その中でもっとも大きなシェアを占めているのは当社です。その背景には当社の持つ商品力や、生産、販売体制などがあります。



選定のポイント

○『PCA会計X』の万全な消費税変更対策によってスムーズに移行

粉碎機・チップーシュレッダーの開発製造・販売において、国内トップのシェアを誇る株式会社大橋。もともとはゴルフ場のコア(芝の根と土が一体になったもの)の回収機の開発製造からスタートし、現在は資源の有効活用に配慮した環境機器や農業機械を多く手掛け、その性能の高さは海外でも高い評価を呼んでいる。とりわけ環境配慮型の同社の製品はEU諸国において関心が高く、同社の営業社員は国内のみならず海外でも活躍している。

同社がPCA製品を使うようになったのは、かなり以前にさかのぼる。『PCAじまんシリーズ』を同社取締役 企画室 管理部マネージャー 大橋淑子氏がネットで検索して知り、その後『PCA会計X』『PCA給与X』と10年以上にわたってPCAソフトを利用してきた。

「『PCA会計X』『PCA給与X』のXシリーズへバージョンアップして使うようになったのは2013年11月からです。2013年10月に消費税の増税が閣議決定され、実際に施行される2014年4月までに、なんとか消費税対策を万全にしておかなければならないと考えていました。そこでPCAに問い合わせ、Xシリーズへとバージョンアップしたのですが、おかげさまで消費税増税については何の問題もなくスムーズに移行できました」(大橋氏)

消費税対策として『PCA会計X』では次のような機能を搭載していた。まず日付による消費税率の自動判定の機能だ。伝票の日付から税率が自動判定され、いちいち手入力で消費税の設定変更を行う必要はない。その一方で、経過措置として2014年4月1日以降の伝票でも5%の消費税区分を設定することもできる。

また科目別に税額を確認できる機能も付いている。「科目別税区分別集計表」では指示された期間で勘定科目別税区分別の金額を集計でき、仕訳の税区分が適切に設定されているかどうかを確認できる。画面だけでなくExcelにも出力できるため、税区分全体をチェックしやすい。

「このような8%消費税への対応によって、会計については何の問題もなく処理できました。長年PCAを使っているためすっかり慣れてしまって、あらためてPCAソフトの良さを申し上げるのは難しいのですが、基本的には今ある機能については満足して使っています」(大橋氏)

導入後の効果

○便利な機能が搭載され、日常の会計処理を効率化できる『PCA会計X』

『PCA会計X』の機能について、大橋氏は次のような点を高く評価している。

「日常的な業務では伝票入力 of フセン機能がとても役立っています。例えば後で確認したい仕訳データがあった場合には、『担当者連絡』などのフセン区分を設定でき、その後の確認を忘れずにできます」(大橋氏)

フセン機能には6種類の区分が設定でき、例えば「担当者確認」のフセンを貼り付けた場合、後でその部分だけをまとめて検索して確認できる。実際のフセンのように何度でも付け替えも可能だ。

他にも「自動仕訳」も便利な機能に挙げられている。勘定科目・補助科目・金額・部門・税区分・摘要文まで仕訳の入力が可能だ。頻繁な取引などはあらかじめ自動仕訳の登録をしておくことで、業務の手間も省けミスも軽減できる。自動仕訳の登録は自由に追加や削除ができるため、それぞれの企業の会計の特徴や運用状況に応じた自動仕訳の登録ができる。

「全体的に検索性の高さではとても便利に使っています。またフセン機能があることで照合もしやすく、時間的にも会計処理の効率化は実現できています。なお、当社が使用しているのはシステムAのため日常的な業務については問題なく使えているのですが、分析処理や予算・実績の管理についてはシステムBの機能になってしまうため、現在は、Excel®データを使って分析や実績比較などに対応しています」(大橋氏)

○柔軟なインターフェースによって、業務によりフィットしたシステムを構築できるPCA製品

現在、同社では『Salesforce Sales Cloud』と『PCA給与X』『PCA会計X』とを連携させて、より効率的な会計・給与業務を実現しようとしているところだ。

「当社の場合、営業職は日本各地や海外への出張も多く、外出している従業員の勤怠管理をどのように確実化・効率化させるかが課題でした。そこで、クラウドベースで利用可能な『Salesforce Sales Cloud』は、あまり深いプログラムの知識

がなくても自社に合った勤怠管理アプリケーションが簡単に作れると聞き、現在、その勤怠管理システムを作っているところです。この勤怠管理アプリケーションと『PCA給与X』とを連携させ、給与計算の処理時間を短縮化させようと考えています。ゆくゆくは経費の精算も『Salesforce Sales Cloud』で行い、そのデータを『PCA会計X』と連携させることも考えています」(企画室 管理部 田川大悟氏)

PCAソフトの大きな特徴として、外部のシステムやアプリケーションとの連携がしやすい点がある。自社の業務の流れに沿ったカスタマイズを加えることで、より事業にフィットした会計システム、給与システムを構築できるのがPCA製品のメリットの一つだ。

「PCAソフトが、後付けで外部のシステムやアプリケーションとのスムーズな連携ができることは、購入した後になってわかったことなのですが、その特性はぜひ活かしていきたいですね。現在、従業員数は約30名で、今のシステムでもまだ何とか対応できる人数ですが、今後従業員の数が増加してもいいように、この

■設計から生産、販売まで一貫対応

粉碎機・チップ・シュレッダーを専門に手がける当社では、設計から生産、ご提案、販売、納品まですべて自社で一貫して行っております。営業部門と完全自社工場による生産部門を兼ねてきたことで、お客様の声を反映した、より便利で使いやすい製品が実現。

優れた商品力を武器に国内での販売数を伸ばしつつ、同時に海外への販売も視野に入れて展開を進めています。

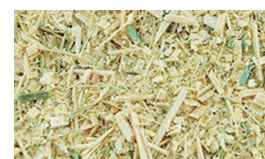
■バラエティ豊かな製品ラインナップ

当社では馬力数や処理径、刃の種類が異なる、バラエティ豊かな製品をラインナップしています。製品の種類は国内でもっとも多く、性能も他社製品には引けを取りません。現在もお客様の声にお応えし、騒音対策を施した新製品を開発中。豊富なラインナップの中から、お客様のニーズにぴったりの製品をご提案することも可能です。

■資源の有効活用で環境に貢献

当社は粉碎後の木材や竹を、バイオマスや堆肥などとして利用したいというニーズに、お応えできるノウハウを持っています。廃棄予定だった樹木をリユースすれば、廃棄物の削減につながります。

化石燃料のかわりに、植物由来の資源であるバイオマスエネルギーを利用すれば、二酸化炭素の排出量抑制効果も。粉碎機・チップ・シュレッダーを通じ、地球環境への貢献をしたいと考えております。



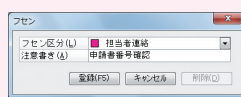
システム概況図

『PCA会計X』の便利機能



①フセン機能

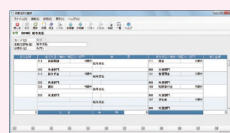
自在に6種類のフセンを貼り付けることができ、後からまとめて検索・確認ができる。



フセン

②自動仕訳

取引内容を選択するだけで、勘定科目・補助科目・金額・部門・税区分・摘要文まで仕訳の入力が可能。取引内容の追加・削除も自由に行える。



自動仕訳

③Excel®との互換性

紙に印刷する場合と同様の手順でExcelデータ出力・PDFファイル作成が可能。そのためオリジナルの実績比較表なども作成しやすい。

今後の検討事項

PCA製品の特長のひとつ
「外部データとの連携・カスタマイズ」

勤怠管理
データ

→ 給与X

○勤怠管理データ+『PCA給与X』
各営業社員が勤怠を入力。そのまま給与データに反映。

経費データ

→ 会計X

○経費データ+『PCA会計X』
各営業社員が経費を入力。そのまま会計データに反映



株式会社 大橋 HP
<http://www.ohashi-inc.com/>



海外進出されている 中小・中堅企業の皆様と、 ご検討中の皆様へ

ピー・シー・イー株式会社は、海外進出を検討される中小・中堅企業を支援する新規事業を開始いたしました。

世界各国の有力な業務ソフトベンダー、システムインテグレーター等と共に、会計・ERPソフトのグローバル・アライアンス・グループ『ALAE(アレーイ)』をシンガポールに立ち上げ、海外進出する際の現地会計ソフトの紹介、日本語マニュアルの提供、トレーニングサービスの提供、『PCA会計』とのデータ連携機能等により、月次連結決算を含む在外子会社の業績管理を実現します。

http://pca.jp/area_top/alae.html

スムーズな連携機能を使って前もって対応しておこうと考えています」(大橋氏)

『PCA給与X』については、給与計算から社会保険、年末調整までほぼフルに使いこなしている。

「当社は20日締め25日払いという、とてもタイトな給与計算のスケジュールのため、実は今後アウトソーシングも選択肢に含めた、より安心できる給与処理を考えているところですが、ずっと『PCA給与X』を使ってきて、給与の計算式なども特に問題なく処理してきました。そのため、アウトソーシングを行うとしても、使い慣れていて他システムと連動する『PCA給与』を利用してもらいたいと考えています。

『PCA給与X』で給与明細を普通のコピー用紙で出力できる機能はとても便利ですね。あともう一つ機能性をより膨らませてほしいなと思っているのが、賞与計算についてです。賞与を計算するときに人事評価のデータを元にしているのですが、現在はそのデータをExcel®で管理しており、それを見ながら入力しています。できればこのような人事評価のデータを、あらかじめ『PCA給与X』の賞与計算に直接連携させたり反映させられる機能があればいいですね」(大橋氏)

○海外への新たな事業展開

農業機器の開発・販売からスタートした同社だが、今後は農業事業そのものにも力を入れていこうとしている。また海外での事業をより一層発展させていくために、外国人社員もすでに採用しており、アジア圏さらにEU圏へと、フィールドをどんどん拡大させているところだ。

今後、同社のように海外進出していく日本企業はさらに増えていくことが予想されており、PCAでは海外進出を検討している中小・中堅企業を支援する事業も開始している。それが海外ERPベンダーとのグローバルアライアンス「ALAE(アレーイ)」(アレーイはラテン語で「翼」の意味)だ。

現在、中国・インド・韓国・マレーシア・フィリピン・ベトナムの各社と協力しているが、今後は香港・シンガポール・インドネシアなどの企業も参画を検討しており、さらには中南米・欧米諸国へとアライアンスを拡大していく。

今後の展望

今後は『Salesforce Sales Cloud』と『PCA給与X』『PCA会計X』の連携による会計・給与業務の効率化、そしてグローバル企業にふさわしい人事評価制度の基準づくりなどを、まずは早期に実現したいと語る大橋氏と田川氏。海外の展示会などでは、同社そして日本製品の高い品質への期待が如実に伝わってくると語る。

「当社の自慢の一つは、魅力的で前向きな社員が集まっていることです。優秀な人材が経営陣を支えてくれています。少数精鋭で動いているため、管理部としても社員の業務を裏からしっかりサポートできるよう、業務の確実化・効率化を促進していきたいです」(大橋氏)

ピー・シー・イー株式会社

pca.jp

Since 1980.8.1

本社 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL.03(5211)2700 FAX.03(5211)2740

※Access®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※Excel®は Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※会社名と製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

※記載内容は取材当時の情報を元に作成しております。現在とは内容が異なる場合がございますのでご了承ください。



高度管理医療機器の販売・在庫管理も
PCAソフトで可能に。
膨大なシリアル番号も
汎用システムで処理



株式会社
中京メディカル

眼科医療をさまざまな角度からサポートしている株式会社中京メディカル。眼内レンズの研究開発・販売、医師の教育環境の整備をはじめ、中国・大連の医科大学と共同事業を行うなど、新しい医療を展開している新進気鋭の企業だ。医療機器を取り扱うため、かなり細かく複雑な会計・販売管理が必要だが、『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』『PCA 会計 9V.2R7』を用いてスムーズに処理を行っている。汎用ソフトを複雑な医療機器販売管理にどう活かしているのかを探った。

導入システム

- ・ PCA 商魂 X with SQL (3CAL)
- ・ PCA 商管 X with SQL (3CAL)
- ・ PCA 給与 X with SQL (2CAL)
- ・ PCA 会計 9V.2R7 with SQL (2CAL)
- ・ PCA 減価償却 V.3

導入の狙い

- ・ 膨大なシリアル番号の管理が手入力のため、時間もかかりミスも起きやすい。
- ・ 自社システムでは Windows® の OS 変更のたびに、システム改修費用がかかる。
- ・ 請求書発行システムと会計システムが別のため、データ入力に時間がかかり、照合作業も必要。
- ・ サーバー管理はコストがかかる。

導入効果

- ・ 汎用システム × バルコード読み取りシステムでシリアル番号を処理。手入力処理がなくなり時間もミスも軽減。
- ・ 汎用システムを導入することで、メンテナンス費用は削減。万が一のトラブルにも対応しやすい。
- ・ 『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』『PCA 会計 9V.2R7』でデータ連携できるため、照合作業は不要に。バルコード読み取りから請求書発行までスムーズに一連の処理が行える。
- ・ サーバーを「HaaS」へ移行したことで、メンテナンスが不要に。※1

プロフィール

株式会社 中京メディカル

- 所在地：
〒456-0032
名古屋市熱田区三本松町 17-1 アムバーハウス神宮 2 階
- 社員数：60 名
- 設立年月日：平成 6 年 8 月 1 日
- 資本金：2,225 万円
- URL：<http://www.chukyomedical.co.jp>

眼科医療をさまざまな角度からサポート

- 主要営業品目：
 - ・ 眼内レンズの共同研究開発、販売
 - ・ 高度管理医療機器の共同研究開発、卸売販売および賃貸
 - ・ 医療機器の輸出入
 - ・ 眼科学術のサポート、眼科手術のサポート
 - ・ 医療従事者(海外含む)業務委託事業
 - ・ 労働者派遣・職業紹介事業



オフィス外観

※1)
【HaaS(ハース)
／Hardware as a Service】
【IaaS(イアース)
／Infrastructure as a Service】

インターネット経由でハードウェアを利用できるサービス。クラウドコンピューティングのひとつである。初期費用が発生せず、メンテナンスや管理も不要となる。



株式会社 中京メディカル
代表取締役社長
安江 朗 氏



株式会社 中京メディカル
医局サポート部
新美 茂幸 氏

導入前の運用と課題

○膨大な製品のシリアル番号を手入力で処理

株式会社中京メディカルの中心的な事業の一つである眼内レンズの研究開発・販売。これらは高度管理医療機器のため取り扱いにも細心の注意が必要であり、製品の販売管理は非常に複雑で手間のかかる処理だった。

眼内レンズにはそれぞれ製品単体のシリアル番号があり、まずはこれを管理しなければならない。桁数は 13 桁。出荷する際はもちろん、返品があった場合もすべて管理・入力が必要だ。

「同じ日に 3、4 箇所の病院でオペがある場合もあり、逆にない日もあります。病院・クリニックの都合によってオーダーが来るので、集中する日もあります。オペにはバックアップ用のレンズも準備しなければならず、1 回のオペに対し 4～6 枚レンズが必要です。仮に 20 眼だと最低でも 80 枚のレンズが必要になり、それが 3、4 施設重なることもあります。すると 240 枚のレンズを出荷するわけですが、これら 1 枚ずつに 13 桁のシリアル番号が振られており、それを入力・管理します。弊社では眼内レンズの販売は年間 1 万 3000 件を超えており、1 万 3000 件に何倍もの数字を掛けた入力処理が必要でした」(代表取締役社長 安江朗氏)

同社は他のディーラーに先駆け、医療機関にスピーディーにレンズを届ける物流システムも持っている。多くのディーラーでは医療機関から発注があった場合、4～7 日前までの注文を必要とするが、同社では発注を受けた 2

～3 日後には届けている。このようなスムーズな供給のため在庫も多い。

以前、同社ではシステム全般は独自のシステムを組んで運用していた。しかしこの膨大なシリアル番号の処理はほぼ手入力で行っていたそうだ。また請求書発行システムと会計システムは連携しておらず、その都度データ入力に時間がとられ、この 2 つのシステムの照合作業も必要だった。

「システム全般を見直す必要があると考えました。以前と同様の自社システムの場合、Windows® の OS がバージョンアップするたびにシステム改修や保守などの維持費が必要です。このコストを抑え、また請求書発行システムと会計システムも連動させたい。サーバーのメンテナンスコストもかけたくない。そして手入力による処理を軽減したい……。そんな多くのリクエストを会計ソフトでお付き合いのあった PCA に相談しました」(安江氏)

稼働までのスケジュール

○バーコード読み取りシステムも導入

シリアル番号の読み取りや入力ミスを防ぐために、当初からバーコード読み取りシステムの導入は前提だった。同社では、中部エリアで提供されている「HaaS」上で『PCA 商魂』『PCA 商管』『PCA 会計』を運用する新環境に移行したのが 3 年前であったが、このバーコードデータの読み取りに少し時間がかかった。

「キャラメル包装のようなラッピングだと乱反射してしまい、バーコード

を読み取りにくくなります。なのでスムーズに読み取れるような工夫も必要でした。バーコードデータを『PCA 商魂』にアップロードし、同時に納品書と請求書の発行がうまくいくかも検証しなければなりません。そのため従来のシステムと新しいシステムとを半年間並行利用していましたが、現在は改善されて、問題なく処理できています。」(安江氏)

導入後の効果

○フルカスタマイズよりも汎用システムという選択

このように非常に複雑で注意を要する販売管理が必要なため、当初はフルカスタマイズでシステムを導入するか迷ったという。しかし同社の場合、既に「HaaS」を利用した環境は整っていた。そのため OS のバージョンアップ費用がかからず、請求書発行システムと会計システムが連携している PCA の汎用システムは魅力的だったという。

「フルカスタマイズの場合、弊社からシステム会社へ十分な情報を伝えなければ良いものは作れません。しかも言えば言うほど複雑化していき、メンテナンスも大変になります。そこで『A という機能は本当に必要か?』『B の項目は C と置き換えられるのではないか?』などあらためてシンプルに考えるようにしたのです。シンプルに処理の流れを考えたことで、汎用ソフトでスムーズにデータを処理できることもわかりました。それでも当初は PCA さんにかかなり多くのリクエストを出しました。打合せも毎回 4、5 時間に及びました。そこで要求しているポイントを再度精査して、不要なリクエストを徹底的に省いたのです。結果的には PCA の汎用システム × バーコード読み取りシステムをカスタマイズすることで、以前のような手入力の処理は必要なくなりました。考え方や使い方次第で、フルカスタマイズよりも費用を安く抑えられる汎用システムで、十分に複雑な販売・在庫管理に対応できています」(安江氏)

システム概況図



①バーコードで 13 桁の
シリアル番号の読み取り

『PCA 製品』×『バーコード読み取りシステム』本稼働

以前は...

- ・フルカスタマイズの自社システム
- ・13桁のシリアル番号を手入力
- ・1日に240枚×13桁のレンズのシリアル番号を手入力で処理することもあった

③『PCA 商魂』から
請求書を発行

②バーコードデータを
『PCA 商魂』に
アップロード

『PCA 商魂 X』『PCA 商管 X』の利用で
データを共有<担当者 3 名>



在庫データ

商品マスター



売上・入金
データ

④『PCA 商魂』の
請求書データを
『PCA 会計』へ
自動変換



仕入・支払
データ

『PCA 会計 9V.2R7』
<担当者 2 名>

○シリアル番号読み取りから 請求書発行までスムーズな 流れに

実際、処理の流れは大幅に効率化された。現在、膨大な製品のシリアル番号はバーコード読み取りによって、そのまま『PCA 商魂 X』にデータを移行。納品書も請求書も照合の手間はなくなり、そのまま出力できる。サーバーも「HaaS」を利用しているため、メンテナンスも不要だ。万が一トラブルがあった場合でも対応しやすい。

「入力・処理している担当者からは、今のところ大きな要望などは上がってきていません。とはいえ実は最初、現場では新システム導入の際にああしたい、こうしたいという、ほぼイレギュラーな内容まで要望として上がっていました。そこに安江が『もっとシンプルに考えてみよう』とアドバイスしたのです。シンプルにしたことで、会計と販売・在庫管理の連携や、バーコード読み取りシステムとの連携など、結果的にはよかったのかなと考えています」(医局サポート部 新美茂幸氏)

今後の課題と展望

○今後は管理部分でも更なる 効率化を

現在の PCA ソフトを用いた汎用システムの運用は、物流の管理・処理をしていくことには成功していると語る

安江氏。今後は管理の部分でより便利に使っていききたいそう。 「コンビニエンスストアのように在庫数が減ったら、自動的に発注できるようなシステムも考えていきたいです。例えば『PCA 商魂 X』からデータを取り出し、Excel®などで集計していけば、このようなシステム作りのヒントにできるかもしれません」(安江氏)

同社は現在国内に 35 施設の協力関係にある病院やクリニックと取引している。今後は東南アジアでの事業も計画しており、先進の医療環境を整えた施設も開設予定だ。大学病院とは異なる、新しい観点での医師教育チームも編成しており、次々に医療界へ新風を巻き起こしている。「患者さんが安心して相談できる病院・クリニックを広げること。そのためにも医師が安心してシンプルに働ける環境も作らなければなりません」(安江氏)

システム導入も同じだと安江氏は語る。「最初はいろんなアイデアがこんがらがっても良いのです。それを前提にして徐々にシンプルに絞っていきます。そしてイレギュラーなリクエストを反映することよりも、プロジェクトとしてもっとも稼働させやすいシンプルなシステムを選ぶことに重点を置くこと。それが発注責任なのではないでしょうか」



中京グループ
「目にくサイト くりっくeye」HP
<http://www.chukyomedical.co.jp/>



株式会社 中京メディカル HP
<http://www.chukyomedical.co.jp/chukyomedical/>



『PCA給与 X』+『就業管理クロノス』で、
勤怠データの自動集計にとどまらず、
社会保険業務の効率化にも成功

日進化学株式会社

1970年に創業した日進化学株式会社。エアゾール製品の製造からスタートした同社は、現在、化粧品や医薬部外品のOEM事業においても輝かしい実績を持つ。開発・製造した商品には誰もが知るヒット商品が並び、大手化粧品ブランドからも頼られる存在だ。会社の規模が拡大し従業員も増える中、スピーディーかつ確実な給与業務を行うために導入されたのが『PCA給与 X』+『就業管理クロノス※1』だ。複雑な給与体系・勤務形態を持つ製造業の現場で、同システムがどのような効率化をもたらしたのかを伺った。

導入システム

- ・PCA給与 X with SQL (3CAL)
- ・PCA会計 X with SQL (5CAL)
- ・就業管理クロノス

導入の狙い

- ・限界を感じていた自社設計の給与計算ソフトを見直したい。
- ・勤怠データの集計にかかる時間を削減したい。
- ・会社が成長し負担になっていた社会保険業務の手続きを軽減したい。

導入効果

- ・『PCA給与 X』なら迅速に給与計算、アフターサービスも充実。
- ・『就業管理クロノス』によって、ICカードをかざすだけで勤怠データを集計。
- ・『PCA給与 X』で社会保険に関する業務を大幅に軽減。

プロフィール

日進化学株式会社

□本社：〒540-0036 大阪市中央区船越町 2-4-6 船越センタービル 5F

□工場：和歌山工場(和歌山県伊都郡)

橋本工場(和歌山県橋本市)

富田林工場(大阪府富田林市)

□創業：1970年5月1日

□社員数：300名

□資本金：2,400万円

□業務内容：各種化粧品、医薬部外品、エアゾール製品の受託充填・加工・研究開発

□営業品目：医薬部外品・化粧品・家庭用品・自動車用品・工業用品等

□URL：<http://www.nisshinkagaku.com/>

□企業理念

私たちは、人命を尊重、地球環境を考慮し、『活気あふれる豊かな企業』の実現に努めます。また、『確かな品質』をモットーに、常にお客様から喜ばれる満足度の高い商品づくりに挑戦いたします。



あらゆるニーズをトータルサポートする OEM メーカー
日進化学株式会社

※ 1・2・3) : 『就業管理クロノス』『就業管理たんぽぽ』『テレタイム X-F』は、クロノス(株)の製品です。



日進化学株式会社
執行役員 総務部 部長
高田 和正 氏



日進化学株式会社
総務部 係長
尾郷 道昭 氏

導入前の運用と課題

○会社規模が拡大し、勤怠データの集計にかかる時間も増加

OEM(受託製造)により数々のヒット・コスメ商品を生み出している日進化学株式会社。開発力と製造力の双方に強く、昨年は和歌山県橋本市にも工場を新設。現在は本社以外に 3 つの工場を有し、従業員数は 300 名近くに及ぶ企業へと成長している。

同社では以前、自社設計した給与計算ソフトを使用していた。社員が Access® によって組んだ給与計算ソフトで、10 年以上にわたって使用されてきたが、徐々に使いづらさや機能の限界を感じるようになったという。例えば、摘要欄は設けていたものの、その内容を検索・閲覧できない事態がしばしば発生。Access® で作成したソフトのため、当然、詳細なマニュアルはなく、一般の給与ソフトのようなアフターサービスもない。加えて、給与処理にかかる時間も負担となりつつあった。

「勤怠管理はタイムレコーダーを使い、各現場からタイムカードを送付してもらい、本社で手計算をしていました。当時すでに 250 名の従業員がおり、製造業の現場には様々な勤務区分の人々が働いており、給与計算は複雑です。また当社は給与の支払いサイクルを早めに設定しており、かなりタイトなスケジュールで給与処理を行っていました。今だから話せますが、朝 4 時に出社したこともありました」(執行役員 総務部部長 高田和正氏)

そんなときに偶然、高田氏が知ったのが『PCA 給与』+『就業管理クロノス』(当時は『就業管理たんぽぽ※2]) による IC カードを利用した就業管理システムだった。同社では以前より『PCA 会計』が使

用されており、PCA ソフトへの安心感もある。「勤怠データをそのまま給与ソフトに取り込める」ということがポイントとなり、2009 年『PCA 給与 X』+『就業管理クロノス』が導入された。

導入後の効果

○『PCA 給与 X』+『就業管理クロノス』で勤怠データを自動集計

『PCA 給与 X』+『就業管理クロノス』では、次のような流れで給与処理が行われる。まず出勤した従業員は IC カードを『テレタイム X-F※3』(タイムレコーダー)にかざす。カードリーダーに通す手間が必要ないので、朝の出勤時でも混雑の不安がない。取り込まれた打刻データは自動的にエラーや不備がないかが確認される。勤怠データの締日にはエラーが残っていないか自動確認され、問題がなければそのまま『就業管理クロノス』から勤怠データを出力し、『PCA 給与 X』へ受け入れる。その後は迅速に給与の支払い処理へと進む。

なおカードリーダーを通さずカードを本体にかざすだけのシステムは、水や油などを扱う環境にも強く、工場などでの使用にも適している。

○圧倒的に便利に感じているのは「社会保険業務の効率化」

『PCA 給与 X』+『就業管理クロノス』の導入によって、給与業務にかかる時間を大幅に削減できた同社だが、一番大きかったのは「勤怠計算よりも社会保険業務の効率化」だと評価する。

「このシステムは、ただ勤怠データの計算が楽になるというレベルではありません。そもそも以前の自社設計ソフトでもある程度勤怠計算はできていまし

た。今回の導入で圧倒的に便利になったのは、社会保険の部分です」(高田氏)

『PCA 給与 X』では、労力がかかりがちな社会保険提出書類を簡単に作成できる。算定基礎届では新等級への反映が楽にでき、対象月になると社員マスターの標準報酬が自動的に書き換えられる。1度賞与データを入力すれば、賞与明細書、賞与支給控除一覧表など賞与関連の帳票すべてに反映され、提出用の形式にそった賞与支払届も出力できる。保険料率・交通費非課税限度額は期間ごとに管理でき、集計期間によって自動計算される。

「導入時に社会保険料率を正確に登録さえしておけば、もう間違えようがありません。また、管理帳票が充実しており、管理を一元化できたことも非常に便利に感じています」(高田氏)

○複数年の年末調整データの蓄積も可能に

『PCA 給与』の特徴の一つとして、その会社独自の計算式の応用や、集計・検索のしやすさがある。同社のような製造業の場合、現場の賃金体系は複雑になり部

署によって手当の種類も異なる。そのため従業員それぞれに計算式が必要になるが、その点も基本的には問題なく利用できている。

「例えば勤怠支給控除一覧表で残業時間を課ごとで確認でき、業務改善の提案などに利用できます。労働保険や介護保険の集計もしやすいですね。なお年末調整については、新しく機能が加わったので、今後はもっと充実させて使おうと考えているところです」(総務部 係長 尾郷道昭氏)

『PCA 給与 X』では、年末調整については、源泉徴収票や年末調整一覧表などのレイアウトが変更になっても、該当年度のレイアウトでの出力ができる。そのため過去の年末調整の出力が可能だ。

○幅広い企業会計に対応できるキャッシュ・フロー計算書への期待

同社では『PCA 会計 X』も導入されている。主に総務部では総勘定元帳や合計残高試算表などが使われており、各工場で入力された小口現金入力データは、本社で取りまとめて処理されている。高田氏と尾郷氏が入社する以前から、すでに



和歌山工場 (和歌山県伊都郡)



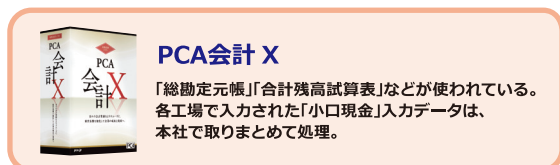
橋本工場 (和歌山県橋本市)



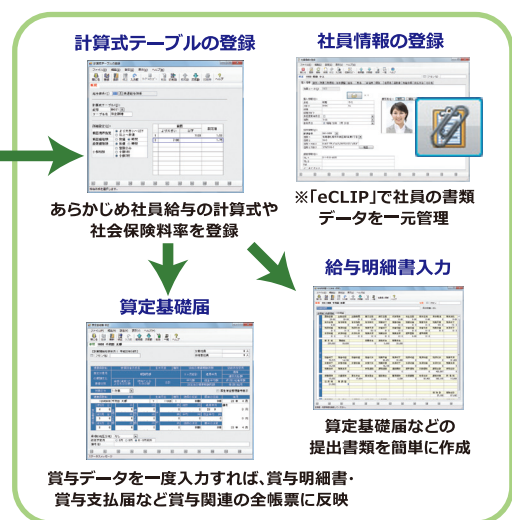
富田林工場 (大阪府富田林市)

システム概況図

勤怠データの自動集計 → 給与データに反映



社会保険業務の大幅な効率化



同社では長年 PCA 製品を使用してきた。「おそらく当社では PCA ソフトを 90 年代半ばから使用しているのではないのでしょうか。私どもは他社ソフトを使うことなく、すっかり PCA ソフトの操作性に慣れてしまったのですが、それでも入力画面はわかりやすいと思いますし、Excel® との互換性が良いので、その点は非常に便利にフルに使わせてもらっています。あえて申し上げるなら、キャッシュ・フロー計算書については、もう少し柔軟性を求めたいです。当社では仕訳単位ではなく試算表レベルでの集計をしたい場合があり、結局 Excel® を使っています。それぞれの企業に独自の企業会計がありますから、その柔軟性を今後はさらに期待しています」(高田氏)

の顔写真を登録できる点です。『今年の新入社員はこんな顔をしているのかあ』と顔が見えることは、信頼関係を築いて会社をまとめていく上でとても重要です。まったく顔が見えない社員のデータを扱うのとは、また違ってくると思います」(高田氏)

今後は、人事考課と『PCA 給与 X』を組み合わせて、さらなる業務の効率化を図りたいそう。『弊社の俸給表は 100 号俸まであるので以前のバージョンでは対応できませんでしたが、『PCA 給与 X』では 200 号まで登録ができるので、当社の人事考課のレベルに近い部分にまで登録ができます。今後は人事考課と『PCA 給与 X』を組み合わせて、より人事に関する業務の効率化を促進していきたいです」(尾郷氏)

同社は年間 1000 ～ 1200 種類もの商品を製造しており、積極的に若い人材の開発部門への採用を進めている。同社が OEM 事業によってヒット商品を生み出している背景にも、若い人々のニーズをつかみ、流行のさらなる先を見据えた開発を行っているからだ。今後もそんな従業員をサポートし「対人間、対ひと」の総務業務を安心して行うためにも、PCA 製品への期待は大きい。

今後の課題と展望

○「対人間、対ひと」という業務をサポートできるソフト

着実に業績を伸ばし、300 名近くの従業員を擁する企業に成長した同社において、人事・経理・給与計算などはすべて総務部 4 名で行っている。高田氏・尾郷氏の両氏はともに総務の仕事全般を知る立場になるが、総務の仕事でもっとも難しいのは人事だと語る。

「やはり『対人間、対ひと』という仕事ですから、非常に難しいときもあります。採用から退職までの一連の手続きや、ときには従業員の不満に耳を傾けることも仕事です。『対人間、対ひと』という面では、『PCA 給与 X』の社員マスターはうまくできています。というのは社員



日進化学株式会社 HP
http://www.nisshinkagaku.com/



自然の恵みを運ぶ



既存の自社開発システム × 『PCA Dream21』 の
合わせ技で入力業務の軽減、業務の効率化に成功



丸善製薬株式会社
MARUZEN PHARMACEUTICALS CO., LTD.

広島県尾道市に本社を置く丸善製薬株式会社。医薬品や化粧品、健康食品などの製造販売を行っており、昨年は新たに工場を増設するなど、順調に業績を伸ばしている。工場や営業所、研究所が各地に点在しており、海外との取り引きも多く、経営上の資料作成のためのデータ出力に時間がかかっていた。同社ではすでに自社開発システムが導入されていたが、そこに『PCA Dream21』を加えることで、業務時間の短縮、システムメンテナンス要員の負荷軽減に成功している。

導入システム

○PCA Dream21 基本モジュール (7CAL)

- ・財務会計モジュール ・会計分析モジュール ・会計予算モジュール
- ・固定資産管理モジュール ・手形管理モジュール

導入の狙い

- ・既存システムとの連携を行い、入力の負担を軽減したい。
- ・会計情報をスムーズに出力し、加工したい。
- ・システムメンテナンス要員の負荷を減らしたい。
- ・今後も自社での追加開発は続けたい。

導入効果

- ・既存のシステムともシームレスに連携し、業務の無駄を軽減。
- ・2部署間でのやり取りがなくなり、会計情報をすばやく確認・加工できる。
- ・『PCA Dream21』が加わり業務の無駄を省いたことで、欠員補充も不要に。
- ・「つながる ERP」のため、自社開発のパッケージを新たに追加することも可能。
- ・税制改正や減価償却制度改正にもスピード対応。

プロフィール

丸善製薬株式会社

- 所在地(本社 / 本社工場) : 〒722-0062 広島県尾道市向東町 14703-10
- 資本金 : 9,800 万円
- 従業員数 : 350 名
- 創業 : 昭和 13 年 9 月 5 日 (法人設立 / 昭和 24 年 7 月 13 日)
- 事業内容 : 医薬品、医薬品用素材抽出物、医薬部外品用素材抽出物、化粧品用素材抽出物、食品添加物、食品、食品用素材抽出物、健康食品、健康食品用素材抽出物の製造販売
- 企業 URL : <http://www.maruzenpcy.co.jp/>



生産



販売



研究

健・善・美

瀬戸内、尾道市の対岸、向島。優しいおだやかな海に囲まれた土地に丸善製薬は誕生しました。そんな地域社会との関わりが環境面、文化面などあらゆる観点から、企業活動を育んできました。創業時から約半世紀の間、私たちは提案型の営業に徹してまいりました。オリジナリティ溢れる発想で、あらゆる分野で甘草の応用を徹底的に試みるというのが原点でした。

常に独創的な企業経営を心がけ、一貫して自然界の有用植物を中心にそのものがもつ有効成分を抽出することにご協力続けています。私たちは、化学的合成に頼らず、あくまでも抽出の技術に研鑽を重ね続けてきた結果が、今日の企業の開発テーマやニーズに呼応していたのだと考えるのです。

抽出に夢を託して 70 年培ってきたのは使命感です。

昭和 13 年の創業以来、私達丸善製薬は、一貫して自然界の有用植物を中心にその物が持つ有効成分を抽出することに拘り続けて参りました。抽出手段を駆使して、お客様の目線に立った、安全性の高い機能性成分を追究し、単に安心できる素材提供だけではなく、人に優しい世の中に役立つ事業継続と、地球環境の保全に努めてまいりました。私たちは、どのような時代にあっても、社会が要求される商品、サービスを継続して、提供していくことが企業の存在価値の源泉となる『お客様の満足』に繋がることを考えております。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。丸善製薬は、「あなたに贈る、自然のいのち・・・高めず、ヘルス・ビューティ・ヒューマニティ」を会社の使命感として、そこから生まれる歓びを享受するという明確な目的意識と思想で事業を展開し活動しているのです。

これからも、有効成分の抽出精製を通じて、活動し続けたいと思います。医薬品や化粧品、食品添加物などの分野で、私たちは「ひと、社会、企業、自然」という財産と共生しながら世界に向け自然の恵みを提供し続けたいと思います。

導入前の運用と課題

○既存システムとの連携がパッケージシステム選択の条件

丸善製薬ではおよそ 10 年以上前から、オフコンシステム上で稼働させる自社開発によるスクラッチシステム「MTIS (Maruzen Total Information System)」を使用してきた。

「弊社のような製造業の場合、企業ごとに財務や会計に独自の癖のようなものがあり、パッケージ製品ではすぐに対応できない場合があります。そこで弊社が自社開発したのが MTIS。工場や営業所、研究所などが点在していますが、これらの場所でも基本的には MTIS を使用しています」(財務部 竹中氏)

この MTIS が導入される前は、毎回伝票を手分けし手入力を行っていた。さらに手書きされた伝票を、システム部門が処理し、財務部が確認するという 2 重の手間も必要だったため、非常に時間がかかっていた。しかし MTIS が導入されたことで残業時間が減り、作業時間が大きく軽減された。ただし自社開発ソフトだけでは対応できない面が見えてきた。

「税制改正がある度にプログラム自体を修正しなければならず、その度に一定期間使えませんでした。制度変更によって計算方法も複雑になり、システムメンテナンスの負荷が徐々に大きくなりました。会計・財務処理に必要な分析資料のデータを生成するにも時間がかかり、会計用の資料を作るだけでも日数や人員を割かなければなりませんでした。経理処理というなら仕訳もかなり大変だったんです。そこで仕訳の部分だけまずは単独で PCA のソフトを入れることにしました」(竹中氏)

とはいえ、すでに MTIS が導入されており、MTIS で処理されている生産管理や経費精算システムとも連携できるシステムでなければならない。外部データの取り込みを柔軟に行えるパッケージシステムを選ばなければならないという条件があった。そこで選択肢として挙がったのが『PCA Dream21』だった。

決定のポイントと稼働までのスケジュール

○追加開発が可能なパッケージシステム

「以前は出納帳を締めてみないとわからない数字があったのですが、『PCA Dream21』だと毎日更新できてますから、正確な数字がすぐにわかります。これは当時比較した他社の製品にはない機能だったので、デモのときから印象に残っていました」(財務部 神田氏)

最終的な決め手となったのは、『PCA Dream21』はエンドユーザーの契約さえ行えばパッケージの追加開発が可能だった点だ。同社のように自社開発のシステムを導入している場合などには、既存システムとの連携が取りやすく、不足業務の追加にも対応しやすい点は大きな魅力だ。財務部だけでなく情報管理部にとっても扱いやすいパッケージシステムであると判断され導入にいたった。

○負荷を軽減するため 2 段階に分けシステム移行

業務の負荷を軽減しシステム範囲の切り分けを行うために、「会計業務」と「減価償却業務」の移行は 2 段階に分けられた。「会計業務」については期首となる 4 月を本稼働に設定したが、前年度のデータがあることで詳細な科目の設定が事前にでき、現行システムと比較した運用調整が可能なため、過年度の 4 ～ 1 月分の仕訳明細を『PCA Dream21』に取り込み、2 ～ 3 月の 2 カ月間を平行稼働させ、データ連携テストや仕訳入力テストを行った。経費精算システムとの連携以外はスケジュール通りに進行し、4 月から稼働。その後半年間は主に会計での運用が試されたが、これも問題なくクリアし、「減価償却業務」の稼働に移った。当初は現行システムで管理している固定資産マスタの内容が、『PCA Dream21』のファイルのレイアウトと異なる部分が多く、マッチングや仕様確認に時間がかかったが、テストデータが仕上がるるとほぼ問題なくマスタを取り込み、システム移行が終了した。



[左]:
丸善製薬株式会社
経理部 経理課 副主任
神田 美樹 氏

[右]:
丸善製薬株式会社
経理部 経理課 課長
竹中 雄一郎 氏



本社/本社工場前にて

導入後の効果

○処理日数を短縮。欠員補充の必要もなし

業務の効率化は MTIS が導入された時点で、ある程度大幅に改善されていたが、『PCA Dream21』の導入でさらに業務の負荷の軽減が実感できるようになった。

「今までの月次決算は、財務部だけでは処理ができず情報管理部とのやり取りが必要でした。財務部で入力した結果を情報管理部に伝え、そこで試算表を出してもらい、間違いがあるとまた財務部と情報管理部との間でやり取りが発生し、2～3 営業日を見ておく必要がありました。しかし『PCA Dream21』導入後は財務部で締め処理を行うだけで済んでおり、処理に要する時間を 1 日減らすことができました。弊社は製造業なので原価計算の処理も入ります。もともとは原価計算の処理が終わって完全に締めるまでは 5 営業日が必要でした。そこに MTIS

が入り、さらに『PCA Dream21』が加わったことでだいたい 2 営業日で処理が終了してますから、時間を 3 日分短縮できたことになります」(竹中氏)

「現在産休中の社員がおり 1 人少ない状態ですが、欠員補充をすることなく業務を回しています。『PCA Dream21』の導入によって、それまでは締めてみないと結果がわからなかったのが、今は出納帳も最新の状態で一緒に付いてきますから、ミスにすぐ気付くことができます。後からの修正処理がない分、スピードアップできてますね」(神田氏)

「細かな点になりますが、『PCA Dream21』の摘要欄に入力できる文字数が多いことも多くの社員が気に入っています。弊社は細かく記しておく必要のある項目が多く、稟議が絡んだものには稟議番号もすべて入力しなければなりません。最大 127 文字まで入力できるので、後から見ても判断しやすいです。この文字数の多さも他社製品にはなかった点ですね」(竹中氏)



本社/本社工場



新尾道工場



尾道西工場



三次工場

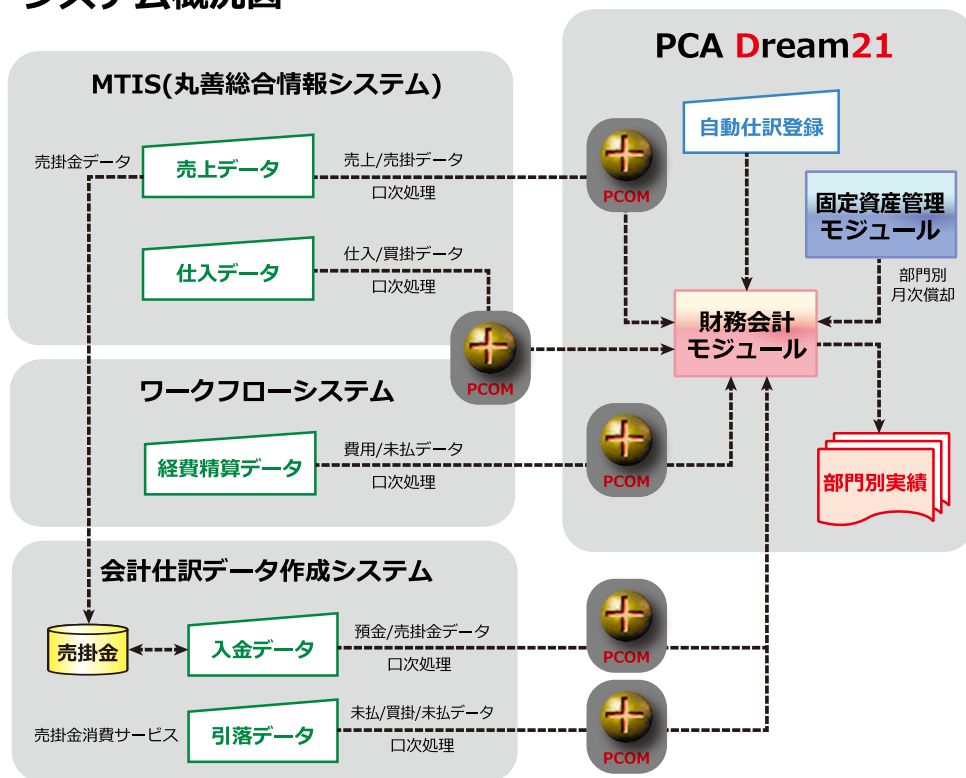


総合研究所

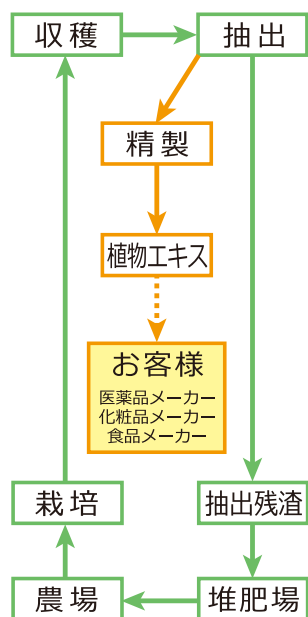


久井ファーム

システム概況図



丸善製薬のリサイクルシステム



丸善製薬株式会社 HP
http://www.maruzenpcy.co.jp/

今後の展望と課題

○より簡単に入力できる操作に

2010年3月に『PCA Dream21』を導入し3年近くが経つ。使用している従業員からは概ね高評価だが、できれば改良してもらいたい点もあるそうだ。

「頻繁に税制改正や減価償却制度が改正されますが、数字の処理の面でそれらにすぐに対応できるという点では、やはり『PCA Dream21』にしてよかったと思います。ただし実際に数字を申告書に落とすのに苦労しますね。申告書の書き方については税務署から、ああしてほしい、こうしてほしいという希望が出されます。その要望に100%満足いく形ではまだ対応できていないと思います。また仕訳伝票の金額欄が借方と貸方の双方に分かれている複合仕訳のような場合、やはり入力に手間がかかります。そんな場合に、例としてタブキーを押すと一発で入力できるようなキーがあると便利でしょうね」(竹中氏)

同社のような製造業の場合、取引先の中には手形を使用する会社も多い。

「現状のシステムでは手形の処理は少々不便です。仮に1億円の手形があったとして、印紙の関係上、1000万円を10枚で処理する場合があります。そのような場合も基本的に情報は同じですから、一発で簡単に入力できると、さらに使い勝手の良さを実感できると思います。今は消費税率の引き上げにより、消費税区分の動向が気になっていますが、この点もPCAが付いているから安心してますよ」(竹中氏)

○経理未経験者にもわかりやすい管理会計システム

「現状はExcel®で別管理をしているのですが、『PCA Dream21』の機能を使えば前年度実績を部門別・科目別で確認しながら今期の予算設定が可能です。なので予算編成においても業務の負荷が期待できるのではと期待しています。会計分析モジュールも少しずつですが使い始めました。現在は機能を試している状態です。弊社の場合、会計に関する情報全部を『PCA Dream21』だけで扱っているわけではないので、急に本格的に使用するのは難しいのですが、使えるものから徐々に使っていければと思います」(神田氏)

「PCAのシステムには、ときには厳しい注文を付けることもあります。ただし全体的な評価として、やはりとても使いやすく、わかりやすいのではないのでしょうか。現在、財務部は6名でそのうち1名は海外事業部から異動してきた、まだ若い社員です。彼は簿記のこともまるでわからないまま財務部にきて約2年ですが、PCAのソフトを使ってバリバリと仕事をこなしています。つまりそれだけ使いやすくわかりやすいということなのでしょうね。おそらく以前の入力表ではわかりにくかったと思います」(竹中氏)

『PCA Dream21』のコンセプトは「つながるERP」だが、既存システムとの併用、多くの工場・営業所とのやり取りなど、同社ではそのコンセプトが理想的な形で実現されている。それに加えて「わかりやすい・経理の流れが見えやすい」という特徴も、ぜひ押さえておきたいメリットの1つと言えるだろう。



複数工場のシステム連携により リアルタイムに業績を把握



株式会社

谷口金属熱処理工業所

TANIGUCHI HEAT TREATMENT CO.,LTD.

主に風力発電プラント品、自動車・大型テレビ金型部品、船舶ディーゼル機関部品、建機部品の金属熱処理加工を手掛けている株式会社谷口金属熱処理工業所様は、ピー・シー・エー株式会社の『PCA Dream21』を導入し、全社統一したシステム化を確立した。現在、各工場をリアルタイムで結び、大幅に業務効率がUPしている。

導入システム

○PCA Dream21 基本モジュール (50CAL 1CPU)

- ・財務会計モジュール ・会計分析モジュール ・販売管理モジュール ・仕入在庫管理モジュール
- ・給与計算モジュール ・固定資産管理モジュール

導入の狙い

- ・複数工場(四国、大阪、兵庫)で独立している売上、生産部分のデータをシステム間で連動したい
- ・複数工場(四国、大阪、兵庫)を連携し、月次の実績、売上(業績)をリアルタイムに近い状態で把握したい
- ・勤怠や売上の数字チェック、修正の手間などの手作業を無くし、人件費・データ精査におけるコスト削減に繋げたい

導入効果

- ・複数工場(四国、大阪、兵庫)で独立している売上、生産部分のデータをシステム間で連動可能になった
- ・複数工場(四国、大阪、兵庫)を連携し、月次の実績、売上(業績)をリアルタイムに把握できるようになった
- ・勤怠や売上の数字チェック、修正の手間などの手作業が無くなり、人件費・データ精査におけるコスト削減に繋がった(統合化・連携化による実績が一番のコストダウン)

プロフィール

株式会社 谷口金属熱処理工業所

□所在地:

四国本社 〒793-0042 愛媛県西条市喜多川 853
四国工場 〒793-0042 愛媛県西条市喜多川 853-16-1
大阪工場 〒592-8331 大阪府堺市西区築港新町 2 丁目 6 番 22 号
兵庫工場 〒675-2113 兵庫県加西市網引町丸山 2001-5

□資本金: 20,000,000 円

□従業員数: 64 名

□設立年月日: 1975 年(昭和 50 年)7 月 3 日

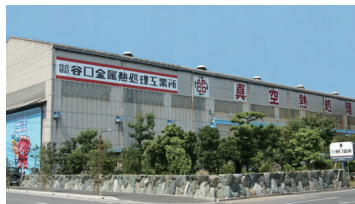
□事業内容: 金属熱処理加工業

□企業 URL: <http://www.taniguchi-mht.co.jp/>

現在、国内の熱処理技術は、世界最高のレベルにあります。当社は、国内有数の高度な技を持ち、主に風力発電プラント品、自動車・大型テレビ金型部品、船舶ディーゼル機関部品、建機部品の熱処理を行っています。中でも船舶エンジン部品は、世界の 6 割、日本の 8 割を処理しています。2006 年(平成 18 年)6 月には、経済産業省より、従来の概念を変える技術により、金属の焼入れによる低歪みや高精度、高付加価値熱処理を実現したことが評価され、同省より「日本の元気なモノ作り中小企業 300 社」の 1 社に選ばれました。また研究開発部門では、世界を市場として、事業化を目指し、新しい熱処理プロセスのホットガスシステム熱処理炉の開発をしています。既に国際特許申請中で、国の「戦略的基盤技術高度化支援事業」の認定を受けています。その他、高濃度浸炭技術や拡散接合技術、水素吸蔵合金技術等の研究開発も行っています。

大阪工場では、刀鍛冶・鉄砲鍛冶から始まった堺の金属熱処理の地において、1975 年(昭和 50 年)、故会長谷口登が創業致しました。現在では、重厚長大の熱処理を得意とする少数精鋭の熱き集団であると同時に、航空機、原子力、油井プラント部品の特殊熱処理を行っています。熟練の技術 + 安全を保持伝承しつつ、高品質の製造部品に個性を与えています。

兵庫工場は、山陽自動車道加古川北インターチェンジに近く、2007 年(平成 19 年)1 月に第一工場が完成し、2008 年(平成 20 年)1 月 19 日に第二工場が完成致しました。国内最大級の大型炉(浸炭・真空・窒化・素形材)・大型冷却槽(容量 200 トン、180 トン)を完備。大型処理可能なため、迅速な納期対応を行っています。広い倉庫も備えているため、保安全管理可能です。鋼と名のつくものなら、どんなものでも処理できる能力を備えています。



本社 四国工場外観



兵庫工場外観

導入までの運用と課題

元々手書きで勤怠管理・経理業務を行っていた同社は、数字チェックの手間、数字の入力間違い、月次の実績が3~4ヵ月遅れになることなどを改善するため、勤怠管理システム『たんぽぽ』の導入、会計事務所へ委託という方法をとっていた。

しかし工場間の連携が難しく、月次の実績、売上がリアルタイムに把握できないという課題が改善されなかったため、兵庫工場を新たに立ち上げるタイミングで、システム全体のリプレイスを検討した。

3工場（四国・大阪・兵庫）の月次の実績、売上をリアルタイムに把握し、システム統合化・効率化を図るべく『PCA Dream21』の導入に踏み切ることになった。

『PCA Dream21』を選んだ理由をご担当者に伺った。

「システム導入を検討する上で、一からシステムを組むことは考えておらず、基本であるERP部分をパッケージ購入して運用する方向で考えていました。『PCA Dream21』を含め、他社製品との比較検討をしていくなかで、既存の『生産管理システム』を生かした連動性、アドオンが重要課題でした。その課題をクリアし選定条件を充足したのが、統合型パッケージである『PCA Dream21』でした。既存の『生産管理システム』を開発しているSIを含め、経理・総務・生産・営業の各部門担当が満足している内容だったことも決定理由のひとつです。比較検討した製品よりも低価格で、インターフェースに関しても以前使用していたPCAソフトの画面イメージだったので問題はありませんでした。」と語る。



低歪み熱処理炉

現在は『財務会計モジュール』『固定資産管理モジュール』『仕入在庫管理モジュール』はそのまま運用し、『給与計算モジュール』は、『財務会計モジュール』と勤怠管理システム『たんぽぽ』の連動部分で運用している。

以前の勤怠管理は、四国と大阪で別会社のシステムのような違いがあったため、現在のシステム内で『たんぽぽ』だけでは設定しきれず、データを変換モジュールに通し、『給与計算モジュール』から『財務会計モジュール』へデータ連携して運用している。

『販売管理モジュール』は、『生産管理システム』からの流れで、「入力したい内容、入力できない内容、一部の

項目を編集したい」などの要望にこたえるため、納品書画面、請求書画面を作成し直し、要望に合わせたカスタマイズ（アドオン）をして運用している。

開発言語は VB6 を使用し .Net 化は現在未定である。社内の対応メンテナンスはシステム担当者がリモートで操作するか、または直接工場に出向いて行なっている。

また PSIP の契約締結により、メンテナンスの問題がなくなり、プラットフォームやサーバーの入れ替え時に、データ・情報等の入れ替えが容易になった。

生産管理システムの機能

現行生産管理システムを使用する機能

- ・加工指示作成
- ・日報作成
- ・日報実績入力
- ・検査成績書作成

PCA Dream21 に移行する機能

- ・納品書
- ・請求書
- ・入金
- ・月次集計
- ・分析

PCA Dream21へ統合



生産管理システムの拠点展開

西条 事務所



モジュール：プログラム

PCA Dream21業務モジュール

経理担当	販売事務担当	倉庫・購買担当	人事・給与担当	経理担当
仕訳データ	売上・入金データ	仕入・支払データ	給与・賞与データ	減価償却データ
財務会計	販売管理	仕入・在庫管理	給与計算	固定資産

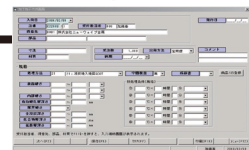
大阪 堺



フレッツ・グループ

地域IP網

兵庫 加西



現在、西条工場に導入している生産管理システムを『PCA Dream21』と連動させ、全拠点に展開します。生産管理システムで行っている納品書や請求書の作成、入金処理は『PCA Dream21』にて行うようになります。

導入スケジュールと効果

2006 年 7 月に『PCA Dream21』を導入し、約 1 年かけてシステム構築を行った。2007 年 8 月に稼働を開始し、当初の予定通り 2007 年 10 月 1 日の期首日に本稼働開始に成功した。

導入後は、経営者、工場長、部門長、担当営業などが工場間（四国・大阪・兵庫）の月次実績、売上をリアルタイムに把握できるようになったため、担当者ごと条件にあった情報をセレクトしてデータ作成が可能になり、経営戦略、戦術に対して大きく貢献してくれているようだ。

勤怠管理や売上の数字チェック、修正の手間などの手作業が無くなったことで、人件費・データ精査におけるコスト削減に繋がった。（統合化・連携化による実績が一番のコストダウン）

「処理スピードが向上し業務効率がUPしたため、物理的な移動距離や出張も減った。システム導入することで、当初の目的以上の効果を達成することができた。」というお声もいただけた。

今後の課題

現在は、煩雑な処理や工数が軽減されたようであるが、将来的な要望をご担当者に向った。

「今後は『手形管理モジュール』の最新情報が PSIP サイトに UP されれば、システムレベルアップ計画もスムーズに立てやすくなると考えています。機能は非常に満足している反面、『仕入在庫管理モジュール』の画面の桁数はカスタマイズしたいですね。ISO9001、ISO14001 を取得しているが ISO のドキュメントとの連携はシステム化されておらず、手書き、Excel®で作成し、承認、画面入力（入力端末は 1 グループ 1 台、事務所で 1 台 / 人）の流れで行なっています。今後ドキュメントとの連携はシステム化していきたいです。またシステム拡張計画として、生産計画のスケジュールリング化（予定管理）も考慮していきたいと思っています。」とおっしゃっていた。



株式会社 谷口金属熱処理工業所 HP
http://www.taniguchi-mht.co.jp/



活動軸となるオフコン 『AS-400』と『PCA Dream21』 との連携で業務統合を実現



日本果実加工株式会社

果実の加工から販売までを展開している 日本果実加工株式会社は、ピー・シー・エー(株)の『PCA Dream 21』を導入し、生産・販売を主体として管理するオフコンシステム『AS-400』との業務連携を確立した。現在、拠点をリアルタイムで結び大幅な業務効率化を実現している。

導入システム

○PCA Dream21 基本モジュール (18CAL)

・財務会計モジュール ・会計予算モジュール ・会計分析モジュール
・販売管理モジュール ・仕入在庫管理モジュール ・給与計算モジュール

○BI ツール (Easy Get for BI)

○勤怠管理システム(たんぽぽ)

導入の狙い

- ・人依りの業務をシステム化することにより、人的コストを削減する
- ・会計システムヘシームレスに連携し、早期決算を実現する
- ・システム間の人的入力による連携を排し、データの整合性を保つ
- ・勤怠管理をシステム化し、業務効率を向上させる

導入効果

- ・システム統合により組織間レベルのプロセスまで改善された
- ・会計システムヘシームレスに連携することにより、締処理にかかる時間が従来の半分に改善され、早期決算を実現した
- ・勤怠管理のシステム化により、手作業では難しかった手当の付与や、残業時間の丸め短縮(15分単位→1分単位)により、残業時間の抑制につながった。
- ・戦略に役立つ資料の作成や分析が可能になった

プロフィール

日本果実加工株式会社

□所在地:

本社:〒111-0051 東京都台東区蔵前3丁目1番10号 蔵前セントラルビル5階
白河工場:〒961-0309 福島県白河市東深仁井田字道山2-4

□従業員数: 66名

□設立年月日: 1972年12月26日

□事業内容: 果汁のブレンド製品やデザート製品等の果実加工、販売業務

□企業 URL: <http://www.jfp.jp/>

甘い香り、鮮やかな色、美しいカタチ。太陽と水と大地の恵みが育てた果実は、地球の楽園そのもの。私たちは、フルーツや野菜など、様々な農産物を果汁やバラエティに富んだ製品に加工し、皆様にお届けしています。果汁の命は、何といたっても鮮度。その鮮度を保つために、独自の研究を重ね、つねに万全の品質管理で提供すること。皆様の健康とよりよい環境を守る事をモットーに安心して頂ける製品づくりに努めています。私たち日本果実加工株式会社、そのフルーツの楽園へ皆様をご案内致します。

2007年5月、日本果実加工株式会社(東京都台東区)で、全社統合型の業務フローが確立された。同社は台東区に本社を置き、福島に生産加工、出荷、配送、在庫までを管理する工場がある。以前より、本社と工場で分割して行なっていた業務環境の統合化とそれに伴うシステムの入れ替えを検討していた。現在では基幹業務が一連の流れとして確立している。

導入までの経緯と選択

システムを再選定するきっかけとしては、総務部の人員が定年で退職を控えていたことに始まる。人員が減るために社内体制やシステムを整えることが急務であったこと。これにあたり全社統一で管理したいという明確な目的があった。

統一化のための大きなポイントは2つある。まずは勤怠管理である。元々、福島にある工場側では既にタイムレコーダーを導入していた。一方、本社では時間外労働分を全て紙ベースの個人申請で行っていた。これにより、社内で集計方法が別々で手間やミスなどが多く整合性に欠けており悩んでいた。もう1つはこれまでの業務に見合った生産・販売・仕入・在庫管理システム『AS-400』をそのまま活かし会計業務まで連動できる方法はないかということである。

選定時は他メーカーも拳がっていたが、『PCA Dream21』は元々導入していたPCA会計シリーズの機能面でベースを引き継いでいる、という安心面や、長年稼働させてきた生産・販売システムのデータを有効活用できるという汎用性の理由から導入となった。

導入後の効果

業務統合化までは次のステップを踏んだ。

①勤怠管理システム『たんぽぽ』での統合管理

まずは、全社統一で運用できる勤怠システム『たんぽぽ』を導入し拠点をネットワークで結んだ。データは本社サーバーで一括管理する。日々の集計作業をデータで扱うことによって整合性が飛躍的に強化された。「個人の残業表など、視覚で確認できる勤怠資料がすぐ作成できるのでいつでもほしい情報が閲覧できるようになりました。」

しかし、今のような形になるまでは苦労されたようで「導入当時はあれもこれも、というように設定が必要だと思っていましたが、社内で本当に必要な設定はもっとシンプルなものでいいことが解ったのです。取扱いがわかってきた時期に、マスターの再設定を行い、更に楽にできる部分が見えてきました。」とのこと。すでに勤怠システムの全体像や機能の面ではしっかりマスターされているようである。



日本果実加工株式会社 HP
<http://www.jfp.jp/>

②独自のメインシステム『AS-400』と『Dream21』の連携

入れ替え当初は『AS-400』側で財務システムまでを揃えようかと検討されていた。しかし、担当者自身がオフコンをメンテナンスするには難しく、時間もいないことや、予算の問題があった。財務システムにはこれまで使い慣れた PCA 会計シリーズを引き継いだものがないという声もあり、最終的には財務情報の受け側として『PCA Dream21』財務会計モジュールが選定されたのである。

『PCA Dream21』はカスタマイズも可能であるが、基本的な業務フローが完結できるような形で既にパッケージ化されている製品だ。『PCA Dream21』の販売管理、仕入在庫管理モジュールと財務会計モジュール間では標準機能において同時に仕訳連携を行う仕組みになっている。これを利用し、財務会計モジュールを最終フローの受け皿として『AS-400』から生成される販売、仕入、入金、支払データを『PCA Dream21』販売、仕入在庫管理モジュール側に自動で取り込み、他の経費等に関する計上は財務会計モジュールの画面で手入力するという方法だ。

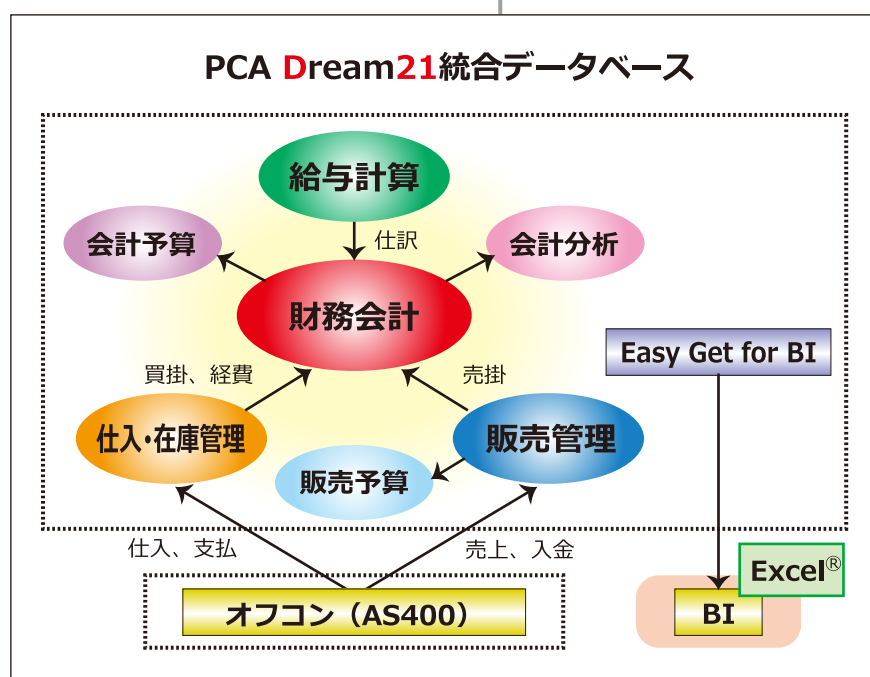
本社では、これまで送られてくる拠点分の月次試算表を手入力して合算していたので非常に不便であったことは、複数 Cal を導入したことで解消された。しかし、連携や統合の部分では苦労もあったようである。「軌道にのるまではシステム間のマスターの関連性からエラーが発生し、検証や修正をしていくのが大変でした。時間はかかったものの、今では両

方のマスターの仕組みや設定方法などを理解できているため、メンテナンスもスムーズにできています。」現在では効率も随分上がっているようだ。

また、別なメリットも生まれた。『AS-400』側で管理している商品や原料分の原価金額を『BI ツール』というツールを使って取り出して集計させるプログラムを連携させた。出力のインターフェースには汎用性が高いエクセルを使用している。これにより「営業の視点から必要な情報や分析資料が出せるようになったので、将来的な視野が広がってきました。」というお声もいただけた。



白河工場外観 (福島県白河市)





本社にて撮影

今後の課題

現在、在庫管理をリアルタイムで行える仕組みを構想中。より正確な原価管理も目標とされている。国内に倉庫があり、そこから移送中の商品に関しては運送中の段階での在庫情報になってしまう点が懸念されるそう。インターネット環境を利用して全てスムーズに完結できる仕組みを検討中だ。

インターネット通信網や質に関しても近年、各段にレベルアップはしているが受注や倉庫の入出荷等、様々な場所で起こるデータも一元管理できれば、と意気込んでいらっしやった。これからも効率 UP のための施策は尽きない。

